

平成22年3月10日

1. 出席議員

議長 杉原豊喜
1番 上田雄一
3番 山口裕子
5番 大河内 智
7番 古川盛義
9番 山口良広
11番 山崎鉄好
13番 前田法弘
15番 石橋敏伸
17番 小池一哉
19番 山口昌宏
21番 吉原武藤
23番 江原一雄
27番 高木佐一郎
29番 黒岩幸生

副議長 牟田勝浩
2番 浦 泰孝
4番 松尾陽輔
6番 宮本栄八
8番 上野淑子
10番 吉川里巳
12番 末藤正幸
14番 小柳義和
16番 樋渡博徳
18番 大渡幸雄
20番 松尾初秋
22番 平野邦夫
26番 川原千秋
28番 富永起雄
30番 谷口攝久

2. 欠席議員

なし

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局 長 末次隆裕
次 長 筒井孝一
議事係 長 川久保和幸
議事係 員 森 正文

4. 地方自治法第121条により出席した者

市		長	樋	渡	啓	祐
副	市	長	古	賀		滋
教	育	長	浦	郷		究
政	策	部	大	庭	健	三
政	策	部	角			眞
政	策	部	古	賀	雅	章
営	業	部	前	田	敏	美
営	業	部	伊	藤	元	康
く	ら	し	國	井	雅	裕
こ	ど	も	藤	崎	勝	行
ま	ち	づ	松	尾		定
山	内	支	牟	田	泰	範
北	方	支	岩	永		浄
会	計	管	馬	渡	公	子
教	育	部	浦	郷	政	紹
水	道	部	宮	下	正	博
総	務	課	山	田	義	利
財	政	課	中	野	博	之
企	画	課	橋	口	正	紀
選	挙	管	大	宅	敬	一
理	委	員				
会	事	務				
事	務	局				
長						

議 事 日 程 第 4 号

3月10日（水）10時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

平成22年3月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
9	8 上野 淑子	1. 市民の安心、安全な地域づくり 1) 命の大切さについての取り組みについて 2) 障がい者にやさしいバリアフリーな地域づくりについて
10	1 上田 雄一	武雄市の今後の可能性について 1. スポーツ振興について 2. 教育について 3. まちづくりについて
11	19 山口 昌宏	1. 市長の4年間の政治姿勢について
12	5 大河内 智	1. 政策課題と市政運営について 1) 観光政策（テレビロケ地活用策） 2) 農林業政策（レモングラス、地元産品販売） 3) 雇用、企業誘致政策 2. 子育て、次世代育成支援について 1) 保育サービス（保育所・幼稚園） 2) 放課後児童クラブ指導員の雇用条件 3. 新幹線西九州（長崎）ルートについて

開 議 9時59分

○議長（杉原豊喜君）

おはようございます。前日に引き続き、本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を続けます。

日程から見まして、本日は5番大河内議員の質問まで終わりたいと思います。

それでは、通告の順序に従いまして、8番上野議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

おはようございます。議長の登壇の許可を得ましたので、上野淑子、一般質問をさせてい

たきます。

きょうは朝からびっくりするような寒い中、雪の中、本当に大変でございました。きょうは高校入試、時間おくれで皆さん大変だと思いますけれども、中学生の皆さん、全力を出して自分の力を発揮していただくように願っております。

では、一般質問を始めさせていただきます。

私は、きょうここに立って4年になります。合併してから4年、不安と期待でどういう市になるんだろうかと思いつながりながら議員に当選させていただき、ここに立たせていただきました。そして、樋渡市長のもと、地域の皆さんのいろんな住民の声を届けながらここまで参りました。きょうは4年間の締めくくりだと思っております。私が届けました小さな声、大きな声、たくさんいろいろありましたけれども、その中で実現できたもの、できなかったもの、多々ありました。でも、これだけはどうしても4年間の最後に届けておきたいということのみを質問させていただきたいと思っております。

まずは、命の大切さについてです。

このことについても、もう既に一般質問いたしておりましたけれども、私はあれから4年、社会情勢、武雄市の情勢、いろんな情勢を見ながら、どうして命をこんなに粗末にするのかなという事件が次々に起こり、人の命、自分の命を大切にしないことに痛切に心を痛めております。

そしてまず、このごろ驚くことですが、3月2日の佐賀新聞に自殺について載っていたと思っております。自殺は、交通事故の6倍の人数だと言われております。そして、数字としましては、1年間に3万2,753人もの方が自分の命を捨てていらっしゃる。どうしてこんな状態になったんだろう。国としても、内閣府としても、本当に重大なことだと取り上げているような施策を練っていらっしゃると思います。

1つお尋ねしたいのは、次年度の予算にですけれども、県の補助金の自殺対策緊急強化基金事業費というのがついておりますが、本市においてはどのようにこれを具体的にお使いになるのか、どのような対策を練っていらっしゃるのか、まずお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

おはようございます。地域自殺対策緊急強化基金事業、議員御指摘がございましたけれども、この事業につきましては平成21年度途中から始まっております。その中で、私たちといたしましては、心と命の文庫事業ということで、図書館と保健センターに設置をいたしたいと思っております。

また、来年度の予算要求の中の話でありますけれども、自殺予防研修会の講師謝金、あるいは心の相談事業の人件費、そして、自殺予防のための資料代や、うつ病のチェックリスト、

市民の皆様方への配布用パンフレット等の購入費を計上いたしたいというふうに思っております。

いずれにいたしましても、やはり自殺という本当に悲惨な状況に追い込まれる前に、回避の方法等を私たちが一丸となって共有する必要があるだろうということから、私たちはこの予算、基金というのを本当に効果的に用いたいと、このように思っておりますので、ぜひまた議員のアドバイスをいただければありがたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

本当にありがたいことだと思います。命を大切にすると、本をあちこちに置くとか、いろんな方策を練っていらっしゃるのは本当にうれしいことだと思います。武雄市においても、相談窓口が今もたくさんあるんじゃないかと思っておりますが、その相談窓口がどのようなことを——市で現在ですね、この予算がついてからされるのではなくて、現在までにどのようなことをされていたのか。そしてまた、そこにはどのような相談が寄せられていたのか。今市長がおっしゃいましたように、未然に防ぐということで、それは相談以外にないと思うんですけども、どのようなことが寄せられていたのか、実態をお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

おはようございます。今現在、武雄市では山内と北方の保健センターで行っております。山内保健センターが毎週月曜日、それから北方が毎週木曜日ということで、これは心と体の健康相談ということで行っておりまして、精神的な悩み、それから健康上の悩みですね。ですから、統計的にとりますと、北方は相談件数、かかわり合ったのは781件。これは、木曜日にグループの方が活動されております。その方の健康相談とか悩みを聞いているということで、山内のほうが105件、これはやはり心と体ということで、健康と精神的な相談ということで聞いております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

その内容について、私から補足をいたしたいと思います。

これは基本的に、年齢層が非常に幅広いんですね。結構御高齢の方が多いかないかと思ったら、さにあらずです。結構若い方も多い。その中で、幾つか例を申し上げますと、やはり家庭上

の問題、それと、先ほど部長からありましたように御自身の健康上の問題、そして、今リスト等がありますので、そういう経済上の問題ということが、私を知る限り、報告を受けていて私が直接、間接に知る限り、そのような内容になっております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

いろんな施策を練っていらっしゃる中、たくさんの相談件数もあると聞いて、本当に驚いておりますけれども、いろんな相談がある中で、私はここで4年間考えておりました本当に必要だなと思ったことですが、県のほうでは「いのちの電話」というのがあります。それは、24時間体制でボランティアでやっておられます。そこに、ちょっと問い合わせてみましたところ、年間で1万8,218件もあって、月平均が1,518件もの利用者があると言われております。いのちの電話は、みんなボランティアで旅費を出しながら、研修費も2万円自分で出して、みんな自分でしている施設であります。そこではもう満杯になっていると。

そして、相談されている件数の中身で一番多いのは、やっぱり命に関するということですね。悩みを打ち明けるといふことなんですけれども、私が市でもこんなにいろんなことをされていらっしゃる、女性は女性で相談の窓口があるし、いろんな場所もあるといふことは存じておりますけれども、やっぱり命を絶つというまでになるまでには本当に大変な心の悩みというのがあって、それは昼間明るくて、お日様が照っていて皆さんがいらっしゃる時にはそういう気持ちにはならない。私も、いのちの電話にしばらく行っておりましたので、いろんなことをお聞きしておりました。本当に、夜にそういう電話がたくさんかかってくる。夜中にかかってくる。だれもいなくなって1人になったときに、ふっと何か寂しくなってくる。その相談の窓口が私は欲しいなと思って、きょうはここに質問をしておるんですけれども、昼間の健康相談、心の相談、あちこちいっぱいつくっていらっしゃる、そこに行かれる方もいっぱいいらっしゃいます。でも、本当に命をどうするか、こうするかというときには、どうしても暗くなってから、夜とかですね、そういうときが多いと思うんです。

ですから、そういう窓口を何とかしてひとつ設けていただけないかなというのが、私のきょうの提案なのです。これもまた、人件費云々、みんな費用のかかってくるところでありますが、最終的に、どうしてもみんなの、地域の、いつも市長がおっしゃっている弱い人の声を聞く、守るためには、私はどうしても相談窓口をですね、今ある相談窓口とともに時間を延長する窓口が欲しいなと思っております。そして、みんなの声を聞いていただきたいと思っております。

いのちの電話は佐賀1カ所ですけれども、もう満杯になって、あちこちに出張所じゃない

ですけど、つくらないかなというふうになっております。いのちの電話もボランティアでずっと始めておりますけれども、そこにしている人たちも高齢者になったりなんかで、だんだんだんだん減ってきて人数も足りなくなっている。本当にそういう状態です。ですから、これはボランティアではなくて、何か市の相談窓口の電話で結構ですから、時間延長とかできればいいな、しなくてはならない状態じゃないかなと、この辺の近々の状態を見たときに私は痛切に思っております。

そしてまた、自殺という行為が今本当に低年齢化しております。ですから、いつ、どこで、どういう状態になるかわからないような、本当に何とも言えない世の中になってまいりました。だから、小さな電話1本の窓口でしょうけれども、不安な心を聞く、そういう窓口が欲しいなと思いますが、お考えはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

確かに、私自身の経験を照らし合わせてみても、私が昔、総務省にいましたときに人事を担当していたときがありまして、その職員の皆さんたち、もう何万人といましたけれども、大体おっしゃるとおり、そういう悩みとか、あるいは自分がうつ病になりそうだということについては、夜やっぱり相談があって、私は「夜の人事課長」と言われたこともありますけれども、よくいろんな相談を夜に承っていたのは事実であります。確かにそうかなということだと思いますので、今、これから制度設計をきちんと行いますけれども、一つの方向として、まず時間延長をさせていただきたいと思えます。試験的に時間延長をさせていただいて、そのことでもし、例えば夜間にそういう御相談があると、そういうニーズがあるということであったときには、きちんと本格的に窓口、あるいは人のやりくりとか、これはいのちの電話とも提携する必要があるかもしれませんので、そういったことも踏まえて、まず時間延長で対処させていただいて、また、そのニーズを見ながら広げていくということで、2段で分けてちょっと考えてみたいなというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

感謝しております。

内閣府が打ち出しているキーワードですけれども、「気づき」「つなぎ」「見守り」、これによって自殺を200人以下にするという目標を立てられているようです。我が市においても、本当に頑張らなくてはいけないなと、守らなくてはいけないと思っております。今のよ

うに時間でしていただければ、きょうは多分テレビで聞いていらっしゃる方もたくさんいらっしゃると思うんですけども、早速にも電話をかけたいなと思っている方もいらっしゃると思います。どうぞ本当に、みんなでみんなを守りながら市政を築き上げていきたいなと思っております。ありがとうございました。

続きまして、障がい者に優しいバリアフリーな地域づくりを目指してということに幾つかお尋ねをしたいと思います。

まず初めにですけれども、今までにいろんな議員の方々の提案で、随分とバリアフリーな市になってまいりました。私がお願いしたことも、いろんなことができ上がってきたりして、どれもだんだんと構築されていっているように思います。

これは1つお尋ねですけど、私、一番初めに道路のバリアフリーについて質問をいたしました。例えば、車いすの方がすれ違うことができないよとか、段差があって大変ですよ、それから、乳母車を持っていったときに上がれないよ、いろんなことがあるよというようなことを言ったときに、市のほうは一応見回って、それから優先順位をつけながらしていきますよという返答いただいておりますが、最近またそういうことをちらっとお聞きしたものですから、本当に広い市ですので、市道、町道、いろんな道があって大変だと思いますけれども、一応どういうふうな進捗状況、どんなふうに進められてきたものなのかをお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

今の質問は、道路に対する危険箇所の把握はどうなっているかということだと思います。そのことについてお答えいたします。

危険箇所につきましては、職員による道路パトロールというのを毎月やっております。それは、うちの職員で大体4班ぐらいに分けて市内を回るという形で点検をやっております。

それと、道路維持補修関係で、職員2名体制で今、常時、毎日市内を回っているわけですが、その職員がチェックしながら、ああ、ここは危険だなというところについては補修をするというふうにしております。

それと、二、三年に1回ということで、国道維持出張所、あるいは土木事務所、そして市、それとお年寄りの方、あるいは視覚障がいの方、それと車いすを利用されている方、こういう方たちで市内を――市内の主要道路ですけど、どういうところが危険か、どういうところを補修せにゃいかんかという点検をやっているというふうな状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

前日も、そういうパトロールをするという返答をお聞きしておりましたので、回っていただいております。

今回の一般質問でも、危険な道路についてはいろんな質問があつて、その解消とか、いろいろ方策をとられているようですけれども、私が質問しているのは、今見て回られてどうなりましたかということをお聞きしたいと思うんですが。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは、21年度のデータで申し上げたいと思います。

まず、道路維持分でありますけれども、道路補修の当初予算が1億円です。その中で、側溝整備の御要望が45件ございました。45件のうち実施済みが34件であります。45分の34が実施済みであります。

道路維持は、55件御要望がありまして、そのうち実施済みが41件であります。55分の41。

舗装補修でありますけれども、これは御要望が32件市内からありました。32件のうち実施済みが25件、32分の25であります。

基本的に、これは優先順位等があつて、それともう1つは補修の困難性等もありますので、直ちにはできないかもしれませんが、私たちといたしましては、これは以前、上野議員にもお答えしたと記憶しておりますが、道路の補修、特にユニバーサルデザインを意識して、補修予算の配分については、なるべく今あるものをきちんと生かそうという観点から、補修費のほうになるべく予算の配分を回そうということで今考えておりますので、ちょっとこれもきちんとまた実証する必要があるだろうというふうに思っておりますけれども、今の進捗状況としては先ほど申し上げたとおりであります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

随分と進んでいるようで、うれしく思います。行政としては本当に大変な広い範囲を、いろんな要望がある中を、大変だと思いますけれども、これからも道路については細かい目配りをしていただき、進めていただきいと思っております。

次に移りたいと思います。次は、介護についてお尋ねをいたします。

この介護についても、私も何度か一般質問をさせていただきましたが、高齢化が進み、4年前よりまた進んで、また新たな問題もいっぱい出てきているように思います。

在宅介護についての質問をさせていただきますが、今、在宅介護をしながら入所を希望していらっしゃる待機者というのですかね、その方がどのくらいいらっしゃるものなのか。また、

その方たちに対して、市としてはどのような施策をとっていらっしゃるのかをお尋ねしたい
と思います。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

特別養護老人ホームの待機と老人保健施設の入所待機者が、2月1日現在、257人です。
内訳としましては、特別養護老人ホームが208人、老人保健施設が49人の待機者の方がいら
っしゃいます。この方は、他の施設への入所、それからショートステイ等とか、あとは在宅
サービスで待機しておられる状態でございます。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

257人の方が待機していらっしゃるということですが、大体市として、めどとし
てどのくらいの期間でですね、そんなのわかりますかね。わかりましたら。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

必要とされる方が、それぞれの施設に契約を結んでおりますので、その契約された施設が
あけばということでもありますので、その実態についてはわかっておりません。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

私も施設に行ってお聞きしたところ、やっぱりめどはなかなかつかないということをお聞
きしたんです。それで、本当に在宅介護はどういうものなのかは、皆さんも御存じじゃない
かと、ここの中にも在宅介護をしていらっしゃる方もたくさんいらっしゃるんじゃないかと
思いますけれども、私は自分が在宅介護をしてみて、これはどうすればいいのかなというの
を考えております。

せんだって、在宅介護支援交流会に私も参加させていただきました。それは、社協の赤い
羽根募金でしていただいたんですけれども、そこに参加させていただいて、いろんなことを
お聞きして、久しぶりでしたけれども、いろんな方にたくさんのお聞きしながら、あ
あ本当に、まだまだ在宅介護というのはあれから——私が介護してからもう10年近くなるん
ですけれども、本当にだんだんだんだんこれは深刻になってきたなということを痛切に感じ
てきた次第なんです。

12月の議会に私はそのことも、また在宅介護についても質問をしたと思いますが、そのと

き市長の答弁で、何とかしなくてはいけないという返事を聞いていた。それが、今度、次年度の予算で交流会を6カ所するようになりましたという返答をお聞きして、本当にうれしく思いました。

その在宅介護者の中の話、少々市長にもこれは聞いていただきたいことなんですけれども、そこにいらっしゃる方のいろいろな話を聞きました。まず、私本当に思ったんですけれども、1人の方が、自分の連れ合いが寝たきりになっている、車いすで動かせるのは動かせると。そして、おっしゃることが、この人と私はもう間もなく別れんばいかん。あとわずかだ。このわずかの間に、何とかしてこの人と一緒に楽しい時を過ごしたい。だから私は、車いすで行けるところは行きます。この前は回転ずし屋さんにも行きました。夫は「これ」と言って、にこっと笑ってね、それだけで私は――。だから、そんなことを少しでもいいからしていきたいと思って頑張っていますと。

そして、そのときにおっしゃったことは――同じことを何人かの人がおっしゃいましたけれども、その中で要望として1つ、介護タクシーを使う、介護タクシーは高い、私たちは年金暮らしです。国民年金です。だから、ごっとい介護タクシーを使っては行けない。介護タクシーの補助金とか、何かなかねと。1つそれを言われました。市の職員の方も1人参加していらっしゃいましたけれども、障がい者に対する介護タクシーは出ておりますが、でも、それは1万円ですね。ですから、すぐなくなってしまうと。だから、もうわずか、もう別れるのはそこだと。行きたい、お金はない、何とかそれはできませんかということも1つ言われました。

それから、その中の幾つかのことですけれども、もう1つは、紙おむつの支給をさせていただいております。でも、それだけでは足りません。私たちは年金です。そんなくらい何かとかさねですかと。入所したらたくさんお金がかかるでしょう。ほんの少しですけど、それはできんもんやろうかと。それは、私も自分が試してみたいと思いました。紙おむつの支給がありますけれども、足りません。私たちは働いておりましたから、できましたけれども、そういう高齢者が高齢者を介護していらっしゃる老老介護の方のお話を聞いて、本当もう痛切に思いました。

そして、次の方は、これは本当にうれしいことでしたけれども、その方は自分の娘さんで、もう五十幾つになられますけれども、脳性麻痺で、もう全くですけれども、ヘルパーさん、ケアマネジャーさん、いろいろな方の助けを受けながら、私は80になりますけど、この子を介護しながら一緒に生活ができると、それは本当に感謝していますと。だから、ヘルパーさんが来てもらったり、市の援助、いろいろな援助をすべて受けながら親子で暮らしていますと。私は、その方たちが来てもらったら手を合わさずにはおれませんと。その方は、もうどがんでん感謝しているとおっしゃいました。本当にうれしいですと。

ほかに、たくさん来ていらっしゃる人たちも、本当にありがたいこともある。でも、自

分たちはできるだけ自分たちの手で看護せんばらんとて、一生懸命になってしよるけれども、そういう小さなことですけどね、そういうところが足りない。

そして、最後におっしゃったことは、自分たちが急にこの人を置いて用事に行かんばらんときがある、どうしても出たいときがある。そのときに、施設ですね、北方ですから杏花苑ですけど、どこも一緒だと思いますけれども、そこに預けるときに、3時から預けて、遅くなって迎えに行ったら2日分払わんといかん。それも払い切らん。でも、どうしても行かんばらんとき、この人はだれに見てもらおうもない。急なときはです。ちゃんと決まっているときは、ヘルパーさんなんかと契約しながらずっと行けるけれども、急にということが絶対ある。そのときに、お金を出せばどこでもしてくださいでしょう。そのお金がないんですよ。ですから、一時預かる施設というものを何とか考えていただけませんかということでした。

そこで、市の職員の方の話や、いろんな話が出ましたけれども、今は補償とかですね、もし預かっていたときにその方がどうかあったら、補償とかいろんな問題がたくさん出てくる。でも、とにかく、赤ちゃんを預けるところはあるでしょうがと、一時預かりとかですね。でも、障がい者、寝たきりの人を預けるところがない。それがあれば、私たちは頑張ってされる。それはもう痛切に、それはもうたくさんの方の意見でした。本当にそれを何とかしてほしい。

だから、本当に思いました。今から先、257名の方が待機していらっしゃるといふこの時期に、健康で、お金があって、そして介護するのはできるでしょうけれども、老老介護、そして年金だけで、もうざらにあります。その方たちが幸せに暮らしていくために、切実な願いを聞いて、私は介護のことをいろいろ今まで言ってきたけれども、4年間の最後にこれだけは何とかしなくてはいけないなと思って帰ってまいりました。市長の考えをお聞きしたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

上野議員の切々たる御質問を聞きながら、私の母のことであつたり、祖母のことであつたり、あるいは上野議員が一生懸命介護をされていたということも仄聞をしておりますので、その光景を思い浮かべました。そして、何よりもいろんなところに今出向いていますけれども、最も大きい話がやはり老老介護の問題であります。

その答弁に入ります前に、ちょっと1つお約束したいことがあります。先ほど部長答弁の中で、どれだけの期間を待てば、例えば老健に入れるのかわからないという質問がありましたけれども、私も確かにいろんな例を聞きますので、これは一回、行政として調査を行います。聞き取り調査を行って、大体どれぐらいの期間を待てば入居ができるかということ調

査したいというふうに思います。その上で、またそれをきちんと分析して、今二百数十名の待機者の方々がいらっしゃいますけれども、一日でも早く入っていただくように方策を考える必要があるだろうと、まず分析をきちんとする必要があるだろうというふうに思っています。

その上で答弁に入りますけれども、やはり老老介護で、介護される方も、介護するほうも本当にお疲れであるということは、私も手紙を幾つかいただいてもいます。その中で、行政ができることについては幾つかあると思うんですけれども、一つの方策として、これはきちんと財源を見つけて、特に老老介護の支援の支給金をしたいというふうに思います。これは、あくまでも年金の中で老老介護をされている方、あるいは先ほどありましたように、介護タクシーの問題であるとか、あるいは紙おむつの問題であるとか、それは人によってさまざまありますので、これは私どもから使途をこうだと上から目線で決めつけるのではなくて、その中で臨機応変に使っていただくような介護支援金がもう必要だろうというふうに思っておりますので、それをすることによって、せめてもの肩の荷がおりにるように、おりていただくような支援をきちんと考えてまいります。

その中で、ぜひですね、きょうは老健の施設の方とか、いろんな方々もたくさん見られていると思いますので、これはこうであれば、先ほどのショートステイの話だったと思いますけれども、情報がまだあんまりないんですね。ですので、ぜひ各施設の皆様方におかれては、自分たちはこういうメニューがあるということも幅広くPRをしていただいて、これは場合によっては、私どもでも市報やホームページを使ってPRすることもやぶさかではありませんので、むしろ、これは積極的にすべきだとも思っておりますので、ぜひ施設の皆様方の御協力もお願いしたいと、このように思っております。事態はそれだけ深刻であるというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

本当に深刻な事態、私たちが改めて考えさせられました。多分きょうもたくさんの方が見ていらっしゃると思いますので、一日も早くそういう施策をお願いしたいなと思っております。

介護というのは、本当に一番目に見えないところです。でも、やっぱりその方たちは今まで私たちを支えてくださった人たちだと思いますし、また大事にしていかなければならない人たちだと思っております。いつか福祉文教でも行きました。老老介護して、どうすればいいのかというところを見に行くと、そのときにいろんな施策をしておられました。もう年寄りばかりの限界地域になってどうしようもない。若い人を雇って——雇ってというか、勤めとして市がその方を雇って、そして老老介護のところを回る。そして、市から給料を払うと

か、そういう施策をしていらっしゃる市もありました。本当にそういう地域になってきた、そういう時代になってきたんだなとつくづく思っております。目に見えるところはできますけれども、市長がいつも言っているように、今議会でもいろいろずっと言葉は出ましたけれども、弱い立場の人というのにどうすれば目が行くものなのか、私たちは本当に気をつけてしていかななくてはならないなと思います。そこら辺をしっかりとしていけば、立派な市になっていくんじゃないかなと思っております。一日も早くこの介護については善処していただきますようお願いしたいと思っております。

最後にですけれども、これもまた4年間の私の最後の願い、またこれも介護に属するところでございますが、エレベーターの件でございます。

お金がない、財源がないことは重々承知の上で、4年間私も頑張ってきました。4年前に、緊急事態としてエレベーターの設置ができないものだろうかということを私は質問をいたしました。そのときの市長の答弁、覚えていらっしゃいますかね。「そんなに歩けない人がいたら、自分が抱えていくけんよかよ」と言われました。私は忘れもいたしません。

（「おいも覚えとう」と呼ぶ者あり）覚えとうですか。（「はい」と呼ぶ者あり）私は一遍も抱えてもらったことはありません。そのとき私は、ああ、この市長は若くて、ようそがんとはわからん人だと思いました。そのとき本当思いました。よーし、今から私が思ったことは言うていくぞと、そのときしっかり思ったんです。4年間ずっとですね、最初から見ながら。今はですね、先ほどの答えでもわかりますように、本当に弱い人の気持ちのわかる立派な樋渡市政になってきたなと感心いたしております。私も一緒にやってきてよかったと思っております。

そのときですけれども、それ以来、市長にちょっとこれは変ですけど、お尋ねしますが、市長は階段を上がっていらっしゃる方の中に、大変だなと思うことを見かけたことがありますか。また、手助けをしたことがありますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

お困りの方を見かけたことはもう数十回ありますし、そのお手伝いをしたことも少なからずあります。必ず私は自分から声をかけます。そして、「一緒に連れていってくんしゃい」と言う方がいらっしゃれば、それは手を引くなり、おんぶはまだ、「しましようか」と言っても、「いや、それはよかよか」と言われますけれども、手を引いて御案内したりとかというのはもう幾つもあります。お困りのところを見たことも複数あります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

多分そうだと思います。でも、たくさんいらっしゃる市民の中で、市長におんぶしてもらおうとか、そういう勇気のある方はいらっしゃらないと思うんです。でも、きょうもですね、私が「エレベーターば言うよ」と。そしたら、我慢して4階まで上がってきていらっしゃる方もいらっしゃいます、傍聴に来てもいただいております。なぜエレベーターが必要なのか。庁舎は市民が一番共有する場所です。ここにすべてが集まります。すべての人がここに来て、いろんな手続をし、議会の傍聴をし、いろんな話を聞き、要望を言いここに寄ってまいります。だから、本当は庁舎が一番いいところでなくてはならないと私は思っております。

ましてや、私たち議員も、足が悪くても議員には立ちたいと思います。なのに、議会に来られないということは大変なことだと思います。お金がないことはもう重々承知しておりますが、その点ですね、なぜなのか。エレベーター設置について、今までこの4年間、どのような考え、話し合い、協議がなされたものなのかをお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

この庁舎のエレベーターにつきましては、これまでも御意見をいただいているところでございます。この庁舎につきましては、以前からもエレベーターについては検討をしてきております。その中で、構造上この庁舎は4階まで直通できる適当な場所が見つからないと。その中で、仮に今の庁舎の中でするとした場合に、まず東側の入り口の横、これは畳の部屋、会議室等を持っていますけれども、仮にそこをつぶして4階まであそこを上げるとした場合には、その上に相談室とか、スタジオ、教育委員会の一部、そういうのがつぶれるわけでございます。そのためには、またそのスペースを確保しなくてはいけないと。それについては、また多額の費用がかかるだろうと。

それと、東側の階段、仮にあそこにエレベーターを設置した場合はということになりますと、今度は階段をどこかで確保しなければいけない。そうすると、また膨大な費用がかかる。それからもう1つ、非常にこれは大きな問題なんですけれども、エレベーターの設置となりますと増築になるということで、増築の場合は耐震診断が必要でございまして、耐震補強が必要になるというようなことで、耐震補強をしなければいけないというような構造上の問題もございまして。こういったところから、エレベーターの建設に着手できないでいるのが現状でございます。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

ちなみに、どのような方法にしる、そのように話をさせていただいているということは本当に感謝します。いろんな方策を練っていらっしゃることはですね。

ちょっとお尋ねですけど、もしそういうふうにした場合に、費用としてはどれくらいかかるものですか。大ざっぱで結構ですけども、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

2階まで今つくっていますけれども、これが約4,600万円でございます。それから推測しますと、4階まで行くと1億円以上の費用がかかるだろうと。それに、耐震調査をしますと耐震の補強と、これはまだ見積もっていませんけれども、これがまたプラスになるというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

1億円以上かかるだろうということでございますが、じゃあ最後にまたお尋ねをします。再度本当にあれですけど、4年間の思いを込めてですので、すみません、もう一度。

それでは、市としては、市長としては、議会には自分で上がって来れない人は来れないということ、それから、例えば職員の中で障がいを持っている方でもここには来れない、いろんなことがあるんじゃないかなと思いますが、そのままでずっと行かれるつもりなのか、お聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

上野議員の御指摘はそのとおりだと思います。私たちとしては、財政上の問題に加え、先ほど耐震という構造上の問題もあります。したがって、エレベーターの設置に関しましては、可能性については、今後、調査検討をきちんといたしたいと思っております。ですので、何も検証もせずままに、そのままだというつもりはありません。しっかり検証をした上で、できない理由より、できる理由を探そうということを思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

前回も同じような返答じゃなかったかなと思います。本当にできる方向に向けてということで、やっぱりこのままではいけないと思います。市がこのままでは、私はいけないと思

ます。みんなに開かれた真のバリアフリーな市でなくてはいけなし、市政でなくてはいけないと思っております。本当に市長は真からどのようにお考えなのか。また、4月から新しい市になります、新しいメンバーにもなります。でも、この4年間、それでよかったものなのか。だって、エレベーターじゃなくても、いろいろあるじゃないかと言われる意見はあると思います。でも、エレベーター1つにこそ、すべてのものも変わっていく、考え方がかかっていると私は思っておりますので、最後、市長お聞きしたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これはまだ答弁を実は整理しておりませんが、私の考えを、せつかくの機会なので申し述べたいと思えます。

私といたしましては、今まで合併をして、旧山内、旧北方の庁舎の活用を優先して考えてまいりました。そのために、全国いろんなところを見回してみても、一定の開かれた市政ということで、それは一定の評価をいただいております。その中で、議場の問題だけ特化して申し上げますと、確かにここに、先ほど——これは約束します、調査検討をきちんといたします。その上で、一時的な話として、この定数も削減されますので、これもちょっと補強が必要かもしれませんけれども、例えば山内町の議場で議会をやる、あるいは北方町の議場で議会を行うという、それはエレベーターもありますので、そういうことも必要なんではないかなということ実は前々から思っておりました。ただし、これは単なる私の考え方でありますので、例えば御高齢者の皆様方であるとか、障がいをお持ちの方であるとか、社会的に弱い、身体的にも弱い方々の御意見をしっかりと拝聴しながら、まず、できることをやる、やらなければいけない。その中で、先ほど申し上げましたように、これはさっきの、本庁舎のこの議場については時間がやっぱりかかります。それは、しっかり調べた上で行うという2段階で行えばいいのかなというふうに思っております。そのときに、ケーブルワンの配線が北方と山内で行けるのかなということも、多分、山内はちょっと厳しいのかなということも拝察されますので、これは市民の皆さんたちもかなり関心が高うございますので、いろんな意見を聞きながら、多聞第一、できることを考えたいというふうに思っております。

いずれにしても、上野議員と考え方、そして、やるべき方向は全く一緒でありますので、そういった意味で、またアドバイスを賜ればありがたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

8番上野議員

○8番（上野淑子君）〔登壇〕

多聞第一、本当にいろいろ聞いていただいて、前向きにということで楽しみにしておりますが、また新しい市政になりますので、どうぞ新しい樋渡市政になってから一番に取り組ん

でございますようにお願いしたいと思っております。

本当にいろんな質問をしてきましたけれども、私が思っている教育のこと、それから環境のこと、それから福祉のこと、いろんなことたくさんありましたけれども、いろんなことを実現できてうれしいこともたくさんありました。でも、今申しましたように、エレベーターのことは最終的な目的であります。みんなのことを考える、優しい市政を進めていく、そのためには金銭にはかえられないいろんな問題があると思います。どうぞ新しい市政になってから、みんなが温かく迎えることができる市庁舎にしていきたいなと思っております。

終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で8番上野議員の質問を終了させていただきます。

次に、1番上田議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。1番上田議員

○1番（上田雄一君）〔登壇〕

おはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、これより1番上田雄一の一般質問をさせていただきます。

月日がたつのも早いもので、1期4年の任期中最後の一般質問となりました。これまで16回の定例議会、新人だからこそ経験を積まなければ自分自身、成長もないと考え、4年前、ポスター等でもいろいろ記載させていただきましたけど、やるという言葉で、何としてでもやらんといかんと、その思いだけでこの4年間、突っ走ってきたような気がしております。普通はなれるもんですけど、今でも緊張しております。どうぞよろしく申し上げます。

それでは、早速質問に入らせていただきます。

今回通告させていただきました、この全質問で取り上げさせていただきましたスポーツ振興について、そして、私がこの場に来る——この世界に入ると言ったほうがいいんでしょうか、きっかけとなりました教育について、そして最後に、これはさまざまなジャンルが幅広くいきますので、まちづくりについてと通告しております。以上3項目であります。

それではまず、スポーツ振興についてであります。

武雄市には、顕著な活躍あるいは貢献をした市民に対して、武雄市名誉市民や市民栄誉賞など創設されているのは周知のとおりだと思います。記憶に新しいところだと、市制創立50周年時は日本航空初代専務の松尾氏、前兵庫県知事の貝原氏、戦場カメラマンの一ノ瀬泰造氏が受けられております。合併後の直近では、重要無形文化財、俗に言う人間国宝の認定を受けられました中島宏さんがいらっしゃいます。

武雄市名誉市民条例や施行規則、また武雄市表彰条例など、条例的にもさまざまありますが、よくよく見てみますと、市長が諮問して名誉市民選考委員会が答申する仕組みになっているかと思えます。これはどのような基準で行われているのか、条例等も見まして、名誉市民と、そして市民栄誉賞の違い、この辺もあわせて御答弁いただきたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。まず、制度的なものについて御説明いたしたいと思います。

まず、名誉市民でございますけれども、これは条例にもございますが、公共の福祉の増進、市勢振興、文化の振興に偉大な貢献をなし、その功績が顕著である本市の市民、または本市と縁故の深い者を表彰する制度でございます。これも条例に基づいております。この名誉市民につきましては、称号を贈るというものでございます。

また、市民栄誉賞につきましては、広く市民に郷土の誇りとして敬愛され、感動を与えるような輝かしい活躍をし、市民に希望と夢を与えるような顕著な功績があった者を表彰する制度ということで、これも条例に基づくものでございまして、功績を表彰するというものでございます。ただ、10年以上とか、そういった年数的な基準というものは、これにはございません。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

名誉市民ですね、先ほどの答弁からいくと、人間性自体とか総評して称号を贈られると。市民栄誉賞のほうは、顕著な功績とか、そういう実績等で表彰されるということですね。

それでは、現在そういった候補者といいますか、検討されている方、そういった方はいらっしゃるのでしょうか、御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

名誉市民、市民栄誉賞につきましても、現在のところ候補者の該当というようなことはございません。あと、市の表彰というのがございますけれども、これにつきましては平成22年度表彰候補者の調べを本年8月ごろに実施する予定でございます。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

今のところ、検討されているというか、いらっしゃらないと。ここで、ちょっと私が思ったのが、スポーツ振興で上げているので、スポーツ界と思うんですけど、武雄市北方町が生んだスーパースター福地寿樹選手ですね。彼は、1993年にドラフト4位で広島東洋カープに入団され、2006年西部ライオンズ、2007年シーズン終了後に東京ヤクルトスワローズに移籍

され、2008年のシーズンでは打率3割2分、9本塁打、155安打、61打点と自己最高の成績を残されております。何よりこの年、42盗塁を決めて、セントラルリーグ盗塁王という初のタイトルも受賞されているんですね。もちろん皆さん御存じだと思いますけど、野球の道を志すたくさん子どもたちから大人まで、野球の人口というのもたくさんいると思うんですけど、その中でもプロ野球選手になるのは一握りですね、もう本当ごく一握り。その中でまた、タイトルを取るといのは、私は1回取っただけでも、十分その称号に値するんじゃないかなと思うんですけど、その上で迎えた昨シーズンですね、自己通算200盗塁も達成されて、2年連続のセリーグ盗塁王を獲得されているんですよ。

その福地選手ですけど、もう合併前から北方小球友会、北方中学校、そういったところで青少年の指導もずっと尽力されておって、合併後は必ず帰省されて、市内の小・中学生相手に必ず野球教室を開催してくれて、子どもたちには自腹で、いろいろ自分が使ったことのあるようなグッズとか、新品のグッズとか、ことしも行いました——行いましたというか、私も幹事の一人でもあるので、野球教室等をやったんですけど、ことしもまたいっぱいですね、子どもたちが喜ぶようなものを持って帰ってきてくれて実施していただいているんですよ。この北方出身スーパースターの福地寿樹選手はこの対象にならないのかどうなのか、御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは、市長個人の見解として御答弁、統括代表権がある市長じゃなくて、個人として答弁をしたいんですけども、当然のこととなり得ると思います。その上で、これを決めるのは、先ほど部長から答弁がありましたように選考委員会でございますので、これは答申するのは私でございますので、一たん調査、整理をした上で私から選考委員会に諮問したいと、このように思います。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

1番上田議員

○1番（上田雄一君）〔登壇〕

本当に厳しいプロの世界で頑張っておられるので、何とか武雄市全体が福地選手を応援するという環境をつくっていききたいなと思っています。ぜひよろしくお願いします。

続いて、スポーツ振興の中で競輪事業について入りたいと思います。

近年、競輪に限らず、競馬、また競艇、オートレースといった、いわゆる公営ギャンブルというんですか、売り上げ低迷が目立っているようでありまして、武雄競輪においても、これはもう例外ではないことでもあります。

こういった厳しい状況の中で競輪事業を考えるに当たって、これはもう毎度毎度こちらで申し上げておりますけど、やはり本場の売り上げアップというのが必要不可欠じゃないかと。本場に元気がなければ絶対だめと私は思っております、売り上げ低迷の起爆剤としては、特別競輪、また記念競輪を誘致するのが一番いいんでしょうけど、この不況下で、どこもやっぱり売り上げ低迷には苦慮されており、特別競輪なり、記念競輪なりというのはもうどんどんどんどん招致したい、誘致したいというのがある中で、やっぱり簡単にいくわけじゃないんですね。起爆剤としても、それはもうぜひ頑張っていたきたいなという中で、それとは別に、何とかして本場のお客さんの、売り上げを上げるためには客単価か、もしくは客数を上げないといけないというところで、実際、武雄競輪場として考えられること、どのようなことをやっておられるのか、競輪事業売り上げアップのためにどのような施策を打たれているか、御紹介願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

実は、昨日の午後、明るい知らせがありました。平成23年度の特別競輪の開催の申請を以前からしてございましたけれども、競争が非常に厳しい中で武雄競輪におきまして、来年の4月に共同通信社杯の特別競輪の開催が決定をいたしました。これは身内の話になりますけれども、林競輪事業所長を含めとして、職員の皆さんたちの頑張りで誘致ができたと思っております。事業所の職員に私からも感謝をしております。そして何よりも、競輪選手会の九州本部長であられる佐々木昭彦支部長さん、佐賀支部長の支援もありました。この場をかりて御礼を申し上げます。来年の特別競輪の開催に向け、事業所職員とともに売り上げアップに努めてまいりたいと思います。

この関係で、ちょっと1つ紹介したいことがあります。（パネルを示す）週刊文春のことの1月21日号であります。下重暁子さん、以前NHKの、世界をまたにかけて行かれた方が、今JKAの会長をされている方のコラムが載っております。ちょっと見にくいかもしれませんが、武雄の競輪場がかなり大きく載っています。その中で、私がちょっとびっくりしたのは、下重さんがお越しいただいたときに、競輪場の入り口で出迎えてくれたのは、地元小学5年生が全員で競輪場を訪れた際に描いた絵であるといったこととか、あと、選手の方々が市民の方々と親しんでおられる。そして、先ほど御紹介した地元選手会支部長の佐々木昭彦さんのお嬢さんは競輪場で結婚式を挙げられたということで、これに際してクオカードにして1枚いただいたと書いてあります。

ここで、優しいお湯のあふれる温泉地武雄、がばいばあちゃんたちも健在だと。嵐山さんというのは、作家の嵐山光三郎のことです。確かに嵐山さんの推奨どおり、推奨されておりましたので、武雄はがばい競輪場であったということで、ここに実際の絵であるとか、

子どもたちが実際見学しているところであるとか、これは市民の皆さんたちが一丸となって今度の共同通信杯の誘致になったということ。

そして、これは以前の話でありますけれども、牟田副議長と私が右代表して下重さんをお迎えして、夜、懇談の場がありました——下重さん、会長さんと、もう1つJKAの職員さんと。そのときに下重さんがおっしゃったことは、頻繁に職員の林さんの名前が出てくるんですね。「林さんのエネルギーというか、活躍はすごいよ」ということをおっしゃっていただいて、本当にうれしく思いました。

繰り返しになりますけれども、そういったなかなか目に見えにくい、地味ではありますけれども、そういう積み重ねが、この厳しい中で共同通信社杯を誘致すること、特別競輪を誘致することができたと思っておりますので、今度はこれを受けて市民一丸となって、まだ1年近くあります、来年の4月でありますので。盛り上げてまいりたいと、このように思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

それはそれは、来年の4月、共同通信社杯特別競輪誘致、本当に職員の皆さんの頑張りのおかげだと思っております。本当に明るい材料ですね。すみません、私もあんまり詳しくはないんですけど、共同通信社杯はたいちゃ売るっばいとこの辺も言いよんさあけんですよ。武雄にとっても本当に明るい材料かなと思っております。その起爆剤は起爆剤として、もう本当にうれしいニュースだと思います。

それと別に、あとそれ以外の期間——期間というか、空白というわけにはいきませんね。ふだん、常日ごろどのように売り上げアップを目指して施策を打たれているかというところ です。

先ほど答弁ありましたように、小学5年生の絵でお出迎えしてというところで、下のほうにも写真が載ってまして、私もちょっと、けさこれもいただいたところですけど、記事と関連しての写真になるのであれですけど、これは佐世保の井上選手がオリンピックで取った銀メダルを無造作にポケットから取り出して子どもたちに触らせてくれたと。子どもたちが触っている写真も載っているわけですね。これこそ、トップアスリートのあかしを生かした教育というか、子どもたちの夢につながるものじゃないかなと思って、この写真を見て私もちょっとびっくりしているところです。オリンピックのメダルなんか、私も見たことないですし、もちろん触ったこともないですから。こういうことは、井上選手のいきな計らい、また佐々木支部長の人脈というか、そのおかげだと私は感じているところです。

きょう、私も1つ何か提案をせんといかんなど思いながらおったところですから、御紹介

させていただくんですけど、先日、スポーツ新聞とか、ちょっといろいろ見よったところで、何か提案がなかかなと思っずと見よったら、高校対抗戦というふうなことがあったわけですよ。もちろん、これは大村競艇の記事やったとですけど、高校対抗戦となつとったけん、高校生に券ば買わすつとかなと思ひよったら、よくよく読んでいると違って、各選手を高校別にずっと色分けしたような感じであつせんされて、最終的にどの高校が優勝するかという企画のレースやったとですよ。ファンから見ると、あんまりそんな、どこまで効果のあつとかなと思ひよつとですけど、でも、よくよく自分のことに考えてみると、やっぱり自分の出身の中学校、武雄中学校とか武雄青陵高校の卒業生の選手が集団になってレースに出るつてなあぎ、やっぱりみんな応援していくと思うとですよ。私ももちろん応援すると思ひし。だから、そういうファンの心理をくすぐつた企画じゃなかつたかなと。

それにいただいたアイデアというか、御提案なんですけれども、そういうのを、ちょっと言うとファン側でできんかなと。ファン側というと、例えばいろんな団体とか、そういう人たちから代表で何名か出てきてくださいというような感じで来てもらつて、それで、例えば的中率を競うような大会とかですね。要は、さっきの紹介にもありましたように、銀メダリストの井上選手とか、メダルのこともあつてですね、やっぱりトップアスリートと思うとですよ。そういうスポーツの感覚で、クリーンなイメージで、従来、小売店で結構、今いろいろ話を聞いている中で、ちょっと来てでも何でんよかけん買つてくださいというお店よりも、買わんでよかけんが、とにかく遊びに来てくださいという雰囲気のお店のほうが生き残つていっているような感じがするんですよ。だから、武雄競輪もそういうふうに、来てちょっとでもよかけん買つてくださいじゃなくて、とにかく遊びに一回来てくださいと。パブリックビューイングでも、そがんやつたと思うとですよ。今レゲエのイベントをされているとき物すごく集まると。やっぱりそういうところで、ちょっとでもよかけん遊びに来てくださいという感覚が必要になつてくるんじゃないかなと。

これをやるとすれば、武雄市ブログの中でもあります競輪専用ブログじゃなかなと私は思うととですけど、「44. ぼんこつスポーツマン」さんですかね、あのブログも結構読者がおんさつとですよ、いっぱいね。私もちょくちょく見ようと思つとですけど、そういうブログなんかに協力してもらつて、武雄市のホームページももちろんですけど、そういうふうにして、武雄競輪場にまず遊びに来てと、車券を買わんでよかけん遊びに来てというような施策が打てないものか。そういう必要性はどう考えるか、御答弁願ひたいと思ひます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

非常にいいお考えだと思ひます。まず、遊びに気軽に来てということで、心理的なハードルを下げるといふこと、そして、今、距離的なハードルといふのはあんまりないんですね。

1,800人を集めた4年前のパブリックビューイングでも、結構遠くから、熊本とか、あちこちから来とんさったけん、そういう意味での距離的なハードルはあんまりありませんので、そういう意味で心理的なハードルを下げた上で遊びに来ると。できれば、親子で遊びに来れるようなことを考える必要があるのかなと。また、議員のアドバイスを賜ればありがたいというふうに思っています。

先ほどの出身高校生の話は、なるほどそうだなと思って拝聴いたしました。ちょっと私たちも考えてみたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

その大会とかも、例えば武雄カップとか、名前は何でんよかとですけど、そういうイベントで、ぼんこつスポーツマンさんに、例えば第1回大会の優勝は何とか企業さんの何とかさんというような感じで、それをずっと続けていくことによって、「名前載ったのう」という話になれば、「ふだんは行かんとぼってん」とか、本当は行きんさあかもわからんし、行きんさらんかもわからんし、そこら辺はわからんですけど、その企画に出たらたまたま優勝したもんねと。そういう感じでも持っていきべきだと思いますし、競輪の販促の予算なんかも、そういった大会の優勝賞品にも回すとか、そういう取り組みというのも私は十分あるんじゃないかなと。とにかく遊び心ですね。

ハード面でもう1つ気になるところは、販促整備の状況ですね。看板とか、いろいろ前回の議会、これも先輩議員から質問等いろいろ出ておりましたけど、武雄競輪場の前の道なりを通っているときでも、なかなか競輪場がぱっと目に入るところにはないもんですから、やはり不利な立地条件にはあるんじゃないかなという気がしております。ぜひちょっと考えていただきたいのが、どこか道路沿いにオーロラビジョンというか、今、結構開催があっているかどうかという確認をするのは、そこを通ったときに、車の多かけんが、きょうはありよるねとか、のぼりが立っとるけん、きょうありよるとかというような感じの、そういうアイキャッチしか、予算上もなかなかそのくらい——そのくらいと言ったらおかしかなと、予算上でそういうふうな施策しか打てないというような状況があるんじゃないかなと。ぱっと見て、きょうはありよるねとかというような感じで、もっとファンを呼び込むような施策が打てないものか、ぜひそこら辺について御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

御指摘の画像の設置でございますけれども、開催の日程について、おとといですか、質問があっていましたように、市内、それから市外、県外の開催日程の看板については、ほぼ撤

去をしております。ということは、今現在の開催の日程というのは、もうとにかく毎日あつとるわけですね。それで、その日程看板を見てこられる客というとは、ほとんどいないんじゃないかということで、そのほかに、例えばパソコンとか、あるいはうちのホームページとか、そういうのを見てお客さんは来ていらっしゃるということで、ただ、開催中については、ゆめタウンの横の道路にはのぼり旗ですか、そういうのでPRはしております。そういうことで、先ほどの件については費用面もございますので、そこら辺を勘案して今後検討はしてみたいというふうに考えます。

それから、先ほど本場とにかく客を呼びたいということで、これは宣伝でございますが、4月17日から60周年の記念競輪でございますので、そこではいろんなイベントがございます。子ども向けのイベントがございますので、17日から4日間、本場のほうにぜひおいでいただきたいということでお願いしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

そういうモニター、オーロラビジョン的なことをやると、どうしてもファン心理をくすぐるところにはなってくるのかなという個人的な考えもありまして、ちょっと提案をさせていただきました。

私は、競輪はプロスポーツだと思っておりますけど、どうしてもギャンブルの要素もあるわけで、嫌いな人というのも絶対いらっしゃると思うんですよ。しかし、これまでも一般会計への繰り出し等もされている武雄競輪、また看板商財でもあります。ですから、とにかく来てもらって遊んでもらうと。一回でも買っていただければ、もちろんその分の売り上げにはつながるでしょうけど、一回買ってもらうという経験が大事だと思うんですよね。経験をしたことによって購入のきっかけがふえていくと。やっぱり何も買ったことなかったら、行こうかとなっても、うんにゃ、おいしたことなかもんねというごたふうになってしまう。でも、一回買ったことがあれば、例えば友達に誘われたときとかでも、ああ、行ったことあるけんが、そいぎ、もう一回行ってみゅうかなという、そういうふうなですね、とにかく武雄競輪の集客アップのためには、例えばお仕事が休みのときでも、きょう何もすつことなかね、何かしたかなというときに、競輪がとにかくその選択肢に上がらんことにはどがんもされんと思うんですよ。これは何の商売でも一緒だと思うんですけど、何かば買おうかなと思うたときに、そこへ行こうかなと考えるお店に上がらんことには、そこから先は絶対なかわけですよね。だから、とにかくそこで選択肢に上がるように、ぜひ頑張っていたいただきたいなと思っております。

これについては、競輪事業に従事されている職員の皆さんというのもたくさんいらっしゃいます。そして、選手の皆さんも武雄市内にたくさんいらっしゃいます。この武雄競輪事業

をどのように今後飛躍させるか、個人的には首長として立たれる皆さんは、ぜひマニフェストに反映させるべきだと思いますけど、これについての考えをお聞かせいただければと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

武雄競輪は武雄の財産であると認識をしております。ですので、先ほど一人でも多くの市民、県民、国民の方々にお越しいただくということ、そして、なかなかお越しになれないという方々にも武雄競輪のすばらしさをアピールする必要があるというふうに思っています。

その中で、先ほどありましたけれども、やはり今度の共同通信社杯が一つの大きな起爆剤になると思っておりますので、それに合わせて、その前後にいろんなイベントを打っていきたいというふうに思っております。この場をかりてでありますけれども、ぽんこつスポーツマンのブログ、私も2日か3日に一遍見ているんですけども、先ほどおっしゃったように非常にファンの方々が多いんですね。ですので、そういった実際選手、あるいは選手関係者の方で発信されている方々のサポートもしていきたいというふうに思っております。

そしてもう1つが、高校総体のときもそうでしたけれども、去年、私も古川知事と一緒に市内を自転車で駆けめぐったんですね。あのときに、競輪選手の皆さんたちも、私が記憶している限り、お忙しい中にたしか8名もお越しいただいて、さっそうと私たちを引っ張っていかれたということで、市内のロードですよ、道路でそういう開かれたイベントもする必要があるんじゃないかなというふうにも思っていて、どっちにしても、いろんな内外を含めて、競輪というのは、私も自転車やっておりましたけれども、こぎ方が全然違うわけですね、プロのアスリートの皆さんと私たちだと。ですので、やっぱりきれいだとか、頑張るとんさあねということも含めてアピールをしていきたいと。私もその一翼を担いたいし、先頭に立ってやってまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

先ほどの話を聞いていると、これも選挙の改選期前になるとどうしても、あつちは競輪ばやめようと考えとんさあばいとか、こっちはどうかと、毎回そういう情報戦になるので、改めてこの競輪事業についての継続性をどのように考えているか、御答弁いただきたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに4年前の選挙のときは、ある特定の方が、今度の樋渡さんになあぎ、もう競輪は廃止すっばいということ、あえてお名前は申し上げませんが、本当に言われました。それに対抗するチラシも配布をさせていただきましたけれども、今回おかげさまで、今度、樋渡市長が再選された場合でも、そういう話は今のところ私のところに入っておりません。それは、とりもなおさず、4年間のうちに私も競輪場に正月から足を運んでいます。そういったことで、ある意味、競輪に携わっている方々が今安心をされているのではないかということ、そして、きょうは多くの、議会の傍聴の方々も多いですし、ごらんになれる方も多いですので、改めてこの場でしっかり継続をしていきます。していったら、その上で魅力を上げていくように、私もその一人として上げていきたいというふうに思っております。

本当に前回のときは非常に困りました。何でこんなデマが飛ぶだろうというぐらいに困りましたけれども、今回、多分その方も、もうそうおっしゃっていないというふうに思っておりますので、そういう意味では今のところ心配しておりませんし、きょう議会を見られている多くの方々にこうやって私は宣言をし、保証したいというふうに思っておりますので、ぜひ競輪の関係者の方々も御安心して、本当にまた頑張っていたきたいというふうに思っております。その決意になったのは、ことしの正月、杉原議長と浦議員で競輪場に行ったときに、本当に議会、そして私たちが一緒に守っていこうと、進んでいこうということを思いましたので、ぜひ御理解をしていただければありがたいと、しっかり支援をしてみたいです。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

安心しました。

それでは、競輪から移りまして、今度は保養村の旧アネックスの再活用ですね。

もうこの件についても、私もこの場で再三質問してまいりました。関係者の皆さんの御尽力によるおかげで、リジョイスさんが進出していただくようになっております。フィットネスクラブをオープンしていただくことになり、大変喜ばしい限りだと思っております。3月1日にはフットサル場をオープンされ、4月にはグランドオープンが控えております。

この議会の席でも、11月オープンとか、2月オープンとか、議会のたびにちょっといろいろな問題があつてとかというような、そして難航しているのもあつて、ようやくここまでこぎ着けた感じがします。やはり旧アネックスのあの建物を再利用ということが前提であったものですから、本当に関係者の人には感謝しているところなんですけど、記者発表が3月1日に行われ、現在、市のホームページのほうにも掲載が載っております。オープンまで順風満帆とはいかなかったこと、これまでの議会のやりとりを見られた方でもわかっていたかかと思えます。

そこで、アイススポーツ、リジョイスさんが行われる施設ですね、これまでの質問の中でも出ておりますように、20名程度の雇用が見込まれるというような話が出ておりましたが、現在、雇用面の進みぐあいというのはどのようになっているか、あわせて答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

昨日、議会の終了後に、リジョイスの山中社長さんと、これをあっせんしていただいた五光の社長さんが私のところにお見えいただいて、いろんな説明をいただきました。その中で雇用の御説明もありましたので、この場をかりて紹介をしたいと思います。

まず、ことしの1月からハローワークを通じて職員を募集中であります。当初計画、新規20名のうち、先ほど議員20名とおっしゃいましたけれども、3月1日現在で正規職員5名を採用し、市内在住者2名がその内訳となっております。そして、4月1日まではパートさん、アルバイトを臨時採用し20名を確保したいと。これについては現在募集中であります。リジョイスさんから私が受けて心強いなと思ったのは、市内在住者の方を優先して採用したいということでありますので、これが一定の雇用の確保につながると。

そして、先日、社長さんがおっしゃったのは、いろんな会員さんが集まれば、あそこはまだバックヤードに土地がありますので、ぜひまた展開をしていきたいと。そのときに、利用者の利便性の確保はもちろんだけれども、それに伴って雇用もしていきたいということをおっしゃっていますので、今現在、新聞の折り込みに会員の募集ということを私も拝見しましたけれども、ぜひ市民の皆様方に愛されて活用していただくようなスポーツ施設になればいいなというふうに認識をしております。それが、あわせて雇用の確保にも副次的につながっていくということで理解をしております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

本当にうれしいニュースであります。雇用につながるというところで大変ありがたく思っており、リジョイスさんのおかげで武雄の地に新しくフィットネスという健康増進を目的とした施設が誕生したことにより、フットサル場はもちろん、スポーツに関する自主トレなどにも対応でき、保養村の振興にも大きく寄与するものだと私も考えています。

この不況の中で、もう本当にありがたい話である中で、この保養村、私もスポーツ振興をこの4年間あらゆる角度から質問させていただいた中で、施設の面とか、競技力、また、にぎわい創出、競輪事業の活性化などもそうですけど、昨日、先輩議員からも触れられており

ました。武雄市でスポーツの拠点となる白岩競技場の施設の老朽化、そして各種正式競技に適していないというような点、各種大会にも適していないという点をもうずっと申し上げてまいりました。そこで、私も提案したことがあるのが拠点を新たに移すべきだと、そうして市外からの集客につなげ外貨を獲得することが必要だということのをずっと、きのうの質問と全く趣旨は同じだと思うわけです。

私の質問の中でも、仮に移転先をどうするかという話がきのうは出ておったんですけど、私、これまでの質問の中で、それをぜひ保養村で考えるのが一番いいんじゃないかと、私はもう常々この場で申し上げてきておりました。仮に保養村に移すとなる、ほかの兼ね合いがいろいろ出てくるかと思うんですけど、私は、さっき8番議員の質問の中でもあった4階まで上がるのがつらいというような話もあって、庁舎も大分老朽化も目立って建てかえんといかんとなると、新幹線の影響があるかもわからん、新幹線が真横を走っていくわけですから、この建物が果たして大丈夫なのかなとか、そういうのも考えた場合に、庁舎を白岩に移して、白岩の施設を保養村に持っていくのが一番よくなかとか、そういうことも考えております。ここがあいたらどうするか、学校誘致とかですね、学校は誘致するならやっぱり駅からすぐ近くのほうがいいというようなところで、それ以外でも、それが無いとしても、今の白岩の施設のところに、市長の42の具約の6項目、最重要課題として上がっておりました企業・学校誘致、起業する方のサポートとして関西大学や多くの企業誘致の経験、そして幅広いネットワークを生かして、全国から企業・学校等の誘致を図るということであります。

私はこの4年間、一番期待していた——期待というか、なればいいなと思っていたのが、やっぱり学校誘致でありまして、市民の皆さんからもそういう声をよくいただいております。学校にも種類がいろいろあって、大学なり、高校なり、専門学校なり、種類はたくさんあるんですけど、そういう学校を誘致されたときに、この白岩の施設のところに誘致すればいいんじゃないかなと、そういうのを期待してこの4年間おったわけです。

学校誘致、それが実現しているかといえば、そうでないわけですけども、これまでの市の取り組み方、関西大学との友好的な関係の築き方とか、そういうのが将来的に結びついて学校誘致につながるのかなとか、私の素人考えの中でいろいろ考えるんですけど、この4年間の学校誘致、企業誘致の取り組み、プラスその考え方というか、それについてどのように考えているか。これまでの実績、言える範囲があると思います、相手があることですから。それについて御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

学校誘致は、先日、企業誘致関係に並行して、関西大学の高槻ミュージーズキャンパスの開校式に私も招かれて行きました。

そのときに、本当に工場の跡地だったんですね。ユアサの電池工場の跡地に、もう巨大なビルがどんと出てきた。これは、とりもなおさず、私が最初に動きましたけれども、やっぱり地元の熱意だったんですね。ですが、反対の地元の熱意もありました。もうそんなの、今じゃ絶対考えられませんけれども、これはブログにも書きましたけれども、相当反対の地域運動もありました。ですので、ある意味、それは病院問題と一緒にだということも思って、実は、これはさきの議会でも申し上げましたけれども、やはり樋渡市政のこの4年間の最大のことは市民病院の民間移譲でありました。私はこれは企業誘致ととらえ、1つ看護学校の、これも誘致だと思います。できたといったことについて、重点がそちらのほうに行きましたので、次のことを言うのは甚だ僭越でありますけれども、もし民意を得ることができるならば、この学校誘致ということの本格的にやっていきたいというふうに思っておりますし、現に今、非公式に幾つかの大学、高校に話をしております。その中で必ずおっしゃられるのは、もう今、駅から近いところじゃないとだめだということなんですね。これは関西大学のミュージックキャンパスも、熱意はありましたけれども、駅から歩いてたかだか四、五分なんですよ、ユアサの工場の跡地も駅から歩いて。その駅から歩いて四、五分の範囲内に、どの学校、学校法人も適地があるかとおっしゃいます。

ということでもありますので、そういった意味からすると、新幹線を見据えて、駅の近くがやはり適地としてふさわしいということは学校法人の方々が必ずおっしゃるんですね。それとあと、病院が近くにあるかということも言われますので、そういう意味でいうと、武雄の今後の利便性であるとか、優位性を踏まえて誘致をする必要があるだろうというふうには思っています。

もとより、先ほど議員から御指摘がありました、先日も牟田議員からもありましたように、白岩の部分でありますとか、ここにいろんな適地があるということも踏まえてお話をしていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

学校誘致、企業誘致ともに大変難しいことだと思います。ただ、できればやっぱり友好的な環境を築き上げられている、例えば関西大学でいえば関西大学九州校というか、関西大学武雄校とかですね、先日も青少年の少年野球教室等でいろいろ関係を持たせていただきました法政大学とかも、例えば法政大学の武雄校とか、そういうふうな感じででも、分校みたいな感じでもいいから、武雄で育て、武雄で学んで、武雄で就職していくというような流れができれば本当にいいなと私も考えておりますので、ぜひこれは今後の検討課題としても残していきたいなと思っています。

続いて、教育についてに入らせていただきます。

最近、学校で生徒が起こすトラブルをよく耳にするわけであります。特に中学生、これについては、ただ言い方はおかしいですけど、賛否両論あるのかなということも考えております。もちろん、他人にけがをさせてはいけませんが、中学生ともなると、やっぱり先生や親に反発したりすることは少なからず私はあるとやなかかなと思うとですよ。それがある意味、中学生らしい当然の成長を見せてくれているという見方もできるんじゃないかなというところも、そういう考えを持たれている方ももちろんいらっしゃいます。これは、私もどちらかといえば、そういう考えのほうが多くて、子どもたちの主観性によるものなのかなと。ただ、学校や保護者、また地域にとっては、こういったトラブルはやはり未然に防ぐことが必要になってくるわけです。これも、さきの議会でも言い続けてまいりました。

そういう中、先生方、会議や研修、放課後の学習指導や生徒指導などで多忙きわまりないわけで、臨場指導ができていないのではないかなと。部活動指導の充実、けがの防止、これまでも取り上げてきた部活動への外部指導者の導入を積極的に推奨してまいりました。これについて、その後どうなっているか。よく何う話が、部活動などで顧問の先生が練習とか試合に来るときは何もなかけど、来とんさらんときはがんやもんね、あがんやもんね、こがんやもんねという話をよく耳にするわけでございます。これについての対応はどのように考えているか、御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

中学校のさまざまな問題につきまして、議員みずから率先して生徒ともかかわっていただくこともありまして、感謝を申し上げたいと思います。

お尋ねの部活動等への指導につきましては、これまでも指導者がいないときの事故の発生とか、トラブル等で問題になったことも現実にあるわけでございます。実際には、確かに多忙な職員の状況がございます。そのために2つの部を、体育館でしている部は、もうとにかくいないときは1人で見ましようとか、あるいは運動場を1人で見ときましようとか、先生が来るまでですね。そういうようないろんな対応をしているわけでございますが、それでは不十分なわけでございます。

ですので、お尋ねにありましたように、地域スポーツ人材の活用実践支援事業というのがございまして、昨年度は武雄中、武雄北中で2名の方に入らせていただきました。来年度の申請をしているわけでございますけれども、さらに希望が出ておりまして、武雄中、山内中、武雄北中、種目も柔道とか相撲、卓球、ソフトテニス、バスケットなどですね。この事業を活用して、地域スポーツ人材という形で御支援をいただくというように広がっているところでございます。

また、この事業とは別に、地域の方がさまざまに入って御指導、御支援いただいているというのは先般の御質問のときにお答えしたとおりでございます。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

外部指導員が市内で17名、この数字を多いと見るか、少ないと見るか、さきの議会でも私は少ないと思いました。ただ、それ以外でも、地域の皆さんの御協力をいただきながらやっているということは、それはそれで大変ありがたいところであります。

江北中学校でも7名、武雄市内は5校で17名。やはり学校からとにかく働きかけをせんことには実現はできないというアドバイスをいただいたことも、前回発言させていただきました。これは、何で前回も言うて今回も言いようかと思われる方もいらっしゃると思います。それについては、やはり今もう3月なんですね。来月には新1年生が入ってくるわけですよ。新1年生が入ってくる中で、生徒はもちろん、保護者も少なからず不安があるという声をよく耳にするわけです。ですから、至急の御対応、学校からの積極的な働きかけをお願いしたいと思います。

続いて、毎度毎度申し上げます高校教育についてであります。

武雄青陵中学校が開校して、早いものでもう3年目。いよいよ中学受験を経験した子どもたち、現在の中学3年生が卒業を迎えております。ここで問題なのが、この子たちの進路であります。青陵高校がない今の中学3年生が進む進路の選択肢としては、武雄高校へ特例でふえたとはいえ160名、それに対する市立中学校の今年度の卒業生が527名、この圧倒的な数字が物語っていると思います。全員が武雄市の子どもたちだったと仮定しても、367名は市外通学を余儀なくされます。

今、保護者の皆さんがどのように感じておるか。ここ最近、非常に多くお声をかけていただくことが多くなったことがあって、「やっとなんか「ごっとい高校が足らん」と言いよるとのようようわかってきた」と。何でかという、孫でと。「うちの孫の行く高校のなかもんね、ほんなごて。どーろ武雄高校には行きえんごたてなあぎ、絶対市外に行かんばらん」という、そういうお話をよくいただくようになりました。ようやく子どもさんやお孫さんを育てる上で、武雄の不利感といいますか、実感されてきているようであります。これも、これまでの議会でも質問させていただき、幸いにも新聞紙上等でも取り上げていただきました。

ちょっと今回パネルを用意しました。（パネルを示す）ちょっと初めてなので緊張しています。この表が、前回口頭だけで申し上げておりましたので、なかなかわかりづらかった部分だと思っておりますが、県内10市の人口が占める割合。武雄市が1つ、その他ほかの市、9市がこのような状況になっております。人口はあくまでも平成20年6月1日現在のデータであ

ります。でいくと、ほかの自治体との差というのはやっぱり大きいのかなと考えます。5万1,000人に1校ですね。これを見てどう思うか。これは、私立高校の0.5というのは女子校がありますので、武雄校舎と佐賀の女子校ですね。こういうデータになるかと思えます。これについてどのように考え、どのように行動されているのか、御答弁願いたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

21年の3月、6月と、この件に関しては貴重な御意見、そしてお考えを承ってまいりました。

この質問の通告をいただきます直前に、今年度の県立高校の募集定員の応募状況が発表になりました。ちょうど再編準備室と話をしたところでもございました。きょうは、先ほど話ありましたように、きのう、きょうと県立高校の試験があっているわけでございます。以前から、武雄市の場合は約500名の卒業生の3分の1が市内の高校、そして3分の2が市外の高校という状況があっているわけでございます。武雄高校に関しては、ことしに限って非常に卒業生が多いということと、外からの流入者という兼ね合いから1学級増の8クラスという状況になるわけでございますが、来年度はまた7学級に戻るということでございます。ここ数年の動きを見ましても、3分の2が市外にという形は変わっていないということでございます。

先ほどのお話にありましたように、これまでも申しましたように、市を単位として考えていないというのが県の方針でありまして、その経過からこういう状況になっているのは、やはり武雄市民としては納得がいかないということで、私も幾たびか準備室でも話をしてきたところでございます。

そういう中で、今、身近な杵島商業高校、佐賀農業高校に約30名から40名の子どもさんが行っておられるわけです。その再編が片方で話題になっておったわけですが、24年度あたりから27年度の状況を見て再編の話に進むんじゃないかというような話も承っておりまして、注意深く推移を見つつ、武雄市の子どもたちのいわゆる進学先について、真剣に見守って対応していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

先ほど答弁いただきました。今るる質問をさせていただいておりますけれども、教育委員会の職員の皆さんから私もお話を聞いていて、浦郷教育長においてはもう本当に県のほうに何度も何度も足しげく訪問されて、武雄市の現状、武雄市の市民の皆さんの思いというのを毎回伝えられていると。私も同席して、一生懸命言いよんさあとを聞いておりますというこ

とを伺ってはおりますので、そこら辺については大変感謝したいところであります。ただ、どうしても西部学区で見るとというのが私も納得のいかない部分であります。

このデータはそういう感じでありませけれども、もう1個ちょっと用意しているんですけど、学区の問題ですね。（パネルを示す）ちょっとこれは余り大きくなくて見つらいところはあるんですけど——すみません。西部学区で見た場合に、どうしても武雄は西部学区の中心にならんといかんと私も常々申し上げておりますし、皆さんの意見も相乗してそうだと思うわけです。ただ、子どもたちの教育の環境においては、伊万里が中心やろうかな、鹿島が中心やろうかな、杵島郡のほうかな、場所的には武雄が一番中心にあるわけですけど、子どもたちが通ってくる、外からも武雄にいっぱい集まってくるような環境にはなっていないなと。

民主党政権による公立高校の授業料等の話が出ております。この先どうなるか、まだまだ不透明なところはあるわけですけども、この公立高校の授業料、概算で見ておおよそ月1万円程度。それに保護者会費や、その他もろもろ別にあと1万円程度かかると。公立高校に行くと、納める額は大体月に2万円程度が必要になってくるというわけです。武雄市内の高校に進むことができれば、自転車で行くかどうかですね。そういったところであれば、もうそれだけになってくるのかなと思うんですけど、周辺部にお住まいの方というのは、やっぱり武雄まで出てこんといかんわけですよ。そこまでの通学費用、もしくは通学の時間、これも加算されていきます。申し上げておきますけど、武雄青陵高校があったときでも、私はそれは充足しているわけではなかったと考えているところであります。

先ほど、志願状況等であるかと思えますけど、志願状況は中学校の先生なり、保護者なり、いろんな方と話しして、自分が行けそうだなというところをねらっていくわけですから、それが定員割れしようが何しようが関係なかわけですよ、私から言わせれば。ですから、そういうのもあるのはあるんですけど、どうしても武雄高校に行かなければ市外の高校に行く必要があって、佐賀市まで通学となると、この地図上からいっても電車の使い方ですね、一番手っ取り早いのは佐賀のほうに通学的には便利なのかなというふうに考えると、佐賀市までも電車代、定期代が毎月おおよそ8,000円程度かかります。肥前山口や有田でも、大体月に五、六千円ぐらいかかりますというふうな話です。時間的な面は絶対考慮する必要がありますけど、武雄駅までの通学時間、費用を考えると、周辺部の皆さんにとってもなおさら負担にもなります。

ある方が言うておられました。佐賀市内の私立高校の関係者は、武雄に足向けて寝られんばいと言ひよんさって。そういう話も私は伺いました。これについてどう考えるかですけど、教育基本法第3条、教育の機会均等の原則からも逸脱しているんじゃないかという声すらありますけど、これについて市長どのお考えになるか、答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、現状認識なんですけれども、私も私学の経営者の方々といろいろな懇談をする場があって、それでもやっぱり悲鳴を上げているんですね。確かに、武雄に足向けて寝られないということは言われます。言われますが、もともと経営があっふあっふで寝られないということも言われますので、非常に学校経営そのものが危機に瀕しているぐらい厳しい。これは佐賀だけじゃありません。全国そうであります。そして、これは県の、今回の青陵の問題については、我々が市長あるいは市議として議席を得る前の決まっていた話ですので、そのときに伺ったのは、今後、武雄を含めて佐賀県内どんどん子ども数の数が減っていくので、非常に県としても対応を苦慮しているという説明を私もいただいたところであります。

そこで、ちょっと考えたいのは、確かに今、関西大学とか法政大学を含めていろんな大学にはパイプがあります。まず、第1弾として、きちんこの場所ですらどうかという誘致をしようと思っています、誘致をもう公式に。できレースとか言われぬように、ちゃんとしようと思っています。その上で、多分来ないと思います。武雄のポテンシャルぐらいだと来ない。

そこで、1つ考えられるのは、ハイブリッド、公設民営。例えば、武雄市がこの部分だけは負担をするから、例えば建物、土地については負担をするから、教員のオペレートであるとか、あるいはそういう人材、ソフトの部分は大学がしますということで、ハイブリッドで行って、それを条件として公募をするというのはあるのかなというふうに思っています。それが特定になるのか、全国公募にするのか、ちょっとそれは我々も考えたいと思いますけれども、やはりそれぐらいしないと多分もう無理かなというふうに思っていますので、ぜひその方策を考えたい。

これはIターン、Uターン、非常に高い評価をいただいているところでもありますけれども、うちの山田君、あれは早稲田を佐賀県に引っ張ってきた張本人なんですね。そういう人材がいるわけですね。全国で、関大を引っ張ってきたのは樋渡だというふうに業界で言われています。早稲田は山田だというふうに言われているわけですね。ですので、そういうノウハウを生かして、うちの職員力も生かして、どういう誘致ができたかということ。特に関西大学は私が中心的にやっておりましたので、一例を申し上げますと、これは市長まできちんと上げた上で、土地の相当分は高槻市が見ますと、土地の相当分。これ40億円から60億円です。その上で、箱物とか人材は来ました。それに関西大学が投じたお金は300億円です。経済効果は今1,000億円以上とされています。ですので、武雄市がそういう意味での誘致の呼び水をするということはあるのかなと思います。ただし、これは財政負担を場合によっては伴う話ですので、議会にきちんと議論をしていただいた上で、その方針を定めていただいた上でこの話をしよう。これは新武雄病院とは意味が違います。新武雄病院は向こうが3億

9,000万円という巨額な、払っていただいた上で行っているわけですから。今度は、もし来手がないということであれば、議会にきちんと意思を諮って、そういう条件を整えて、市民挙げて来てくださいますということをぜひしたいというふうに私自身は思っていますので、まず詳細な公募の制度設計については、よく議会と、次新しくなった議会とですね、私がここにいるかどうかちょっとわかりませんが、もしなれば、議会と相談した上で、市民にお諮りをした上で市民的な誘致運動をぜひ行いたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

本当に前向きな話を聞いてよかったです。大学関連の学校誘致ももちろん必要です。

これともう1点、教育長にお願いですけど、杵島商業、佐賀農業の合併、再編の話が出たときには、可能かどうかわかりませんが、合併に便乗して武雄に引っ張るぐらいの覚悟を持っていただきたいと思いますと思っています。総合学科として武雄に公立高校をまた引っ張ってくるという、その考えは、だめもとでも私は持ち続けるべきだと。武雄市の子どもたちのためにですね。お互いの高校も、私の感覚からいえば、決して恵まれた通学環境にはないと思うんですよ。どうしても今の杵島商業の場所、佐賀農業の場所、この場所よりも武雄のほうが通学環境は子どもたちにとっても優しいと思うわけです。この公立高校のほうも引っ張ること、決意のほど、どちらかよかったらよろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

それは本当にいい案ですね。公立学校を引っ張るという考えは私にはありませんでしたので、これは知事と私の懇談の場であるとか、市長会の懇談の場であるとか、もう私から直接言います。武雄のほうがよかばいと、もう新幹線も通るし、これだけ通学にも恵まれたところはないですよと、武雄の人たちみんないい人ということで伝えていきたいというふうに思っております。非常にいい案をいただいたと思います。

先ほどの答弁の補正なんですけれども、先ほど私、大学の名前を言いましたけれども、実は関西大学の場合でいうと、小学校から大学院まで一括して誘致しているんですね。早稲田の場合は中高一貫なんですね。ですので、ここに大学という話じゃなくて、一番市民の皆様、県民の皆様たちが望んでおられる、例えば高校、中高一貫になるかもしれませんが、そういう意味で申し上げましたので、ちょっと私の説明が言葉足らずだったということは、この場で修正をさせていただきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

ここで議事の都合上、1時20分まで休憩をいたします。

休	憩	11時57分
再	開	13時18分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き一般質問を続けます。

1 番上田議員、質問を続けてください。1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

途中で切れましたので、ちょっとどこからいこうかなというところですけども、教育についての話には市民の皆さんからたくさんの声をいただいた中で、この問題というのは、大変皆さん深刻な状況でありますので、今後も私のテーマとして残して、また、私がこの場所に戻ってこれれば、継続してまた訴えていきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。次に入ります。

最後の中項目、まちづくりについてであります。

このまちづくりについてとしておりますけど、適当な項目名が思いつかずに、こういうふうに通告をさせていただいておりますが、事業の継続性と言ったほうが正直わかりやすいのかもわかりません。

では、質問させていただきます。これまで質問させていただいた項目の中でも、御船ヶ丘小学校の放課後児童クラブの件については、ぜひ卒業式までに間に合わせてほしいと訴えておりましたが、どうやら本日が工事の終了予定というふうに伺っております。武雄東児童遊園、通称S L公園の駐車場整備において、また、白岩運動公園整備など、これについてもきめ細かな交付金事業で予算計上をさせていただいておりますので、大変感謝しているところでございます。

事業の継続性といいましても、これにかかわる最大の要因というのは、やはり需要と供給のバランスではないかなと思っております。その上で、さきの議会でも若干質問させていただきました下水道事業。下水道事業が実施されている地区の皆さんも、話を伺うところによりますと、下水道には接続をしたい、ぜひやっていかないといけないというふうに考えていただいているようです。しかし、接続するとなると利用量によつての負担が発生するわけで、商売をされている皆さん、特に排水等ですね、水を使われるような業種の皆さんにおいては大きな負担というふうなことで考えられております。

下水道に接続するためには、借金して接続しないと予算が確保できないという方もいらっしゃるようで、そういう方が実際はほかにももっといらっしゃるんじゃないかなと、借金をして接続する、その後さらには利用料までこれまでより上がるというようなことになると、協力したくてもできないと、そういう声をさきの議会でも述べさせていただきました。何か策を考えてほしいということでありました。太陽光のソーラー発電、これも同様に、こっち

は申し込みが殺到したほどで、一般的に考えるとランニングコストが安くなるから初期投資をしようという考えに、やっぱり当然なると思うんですね。下水道においても、そういうふうな考えてもらわないことにはやはり手が出ないというのもうなずけるところはあります、もちろん。そのときの、さきの議会の答弁で、対象地域の皆さんと話をしてみるという御答弁をいただいておりますけれども、これについてどのような状況なのか御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

さきの12月議会で、地元に入って聞き取りをするという答弁を市長がしております。これにつきましては、今供用開始しているところが川端地区と、それから本町通り、あと蓬莱町のほうまで行きますけど、この通りで、旅館関係は浴場を持っておられて水をたくさん使われるというところの、旅館関係について今お尋ねをしていると。それで、ポンプの運転時間とかいうものを調査しながら汚水量の実態調査を今調べているというところなんです。それで、今、旅館関係の済んだところが2件あって、まだ調査中という状況でございます。

聞き取りについては以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

旅館関係のほうは今調査をいただいておりますということですね。この下水道事業の水の利用量ですかね、分類をすると、旅館業は確かにもう、けた違いにやっぱり多い部類に入ると思うとですよね。一般家庭、標準世帯といいますか、それは中くらいと、標準とした場合なんです。もちろん、少ない家庭もその中にはあると思うんですけど、多い事業所と標準の、この中間ですね。多いところよりも少ないけど標準のところよりも多くなる、ここら辺もぜひ調査をしていただいて、とにかく供用開始地区、今後なる地区、あわせて今の市民の皆さんがどのような悩みを持っておられて、どこに困っておられるのかというのをぜひ拾い上げていただきたいということを要望しておきます。

続いて、時間もありませんので、ちょっと端折っていきます。

オリンピックに続いて、さきのバンクーバーオリンピックに続き、これも4年に1度の祭典、頭に浮かぶのがサッカーワールドカップのパブリックビューイングでございます。4年前のあの歓声、思い起こせば、いまだにあの時の興奮がよみがえってくるわけでありまして。

残念ながら、ゴールによる歓声は味わえませんでした。県内に限らず県外からたくさんの方が武雄競輪場にお越しいただき、大変盛り上がったことだったと私も記憶をしております。

さて、このワールドカップですが、来年度、早速もう6月に南アフリカワールドカップが迫っております。これについて、このパブリックビューイングという事業を継続する可能性、意識があるのかどうなのか、そこを御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

4年前の樋渡市政最初の事業としてFIFAワールドカップのパブリックビューイングだったと思います。ことしですけれども、南アフリカワールドカップは、6月14日月曜日、対カメルーンで日本時間が23時、6月19日土曜日、対オランダ戦、日本時間が20時30分、6月24日木曜日、対デンマーク戦で——すべてこれは開始時刻ですけれども、日本時間午前3時30分となっていて、ぎりぎり23時まではいいんですけど、デンマーク戦が3時30分、決勝まで行けば、またさらに違う展開になろうかと思うんですけれども、できる時間帯ではありますので、パブリックビューイングはぜひ議会の御賛同が得られれば、開催をしたいと思います。場所等については、いろいろ今、私のところにも非公式に話が来ておりますので、またアドバイスを賜ればありがたいというふうに思います。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

3戦、カメルーン、オランダ、デンマークと予定をされております。私個人的な感覚からいくと、決勝トーナメント進出はちょっとかなり厳しい組に入っているなというふうな思いがありますので、実施するとすれば、この3戦のうちのいずれかでというふうなことを考えていくのが一番筋だかなあと思っております。

この開催場所ですけれども、前は競輪場でやりまして、これは冒頭にも申し上げたように、競輪場にまず来てもらう、競輪場の敷居を低くするというねらいも、それに伴う効果もあったはずであります。ただ、今回開催場所がどのように考えられているのか、もちろん予算面も考えなくてはなりませんけれども、まちのにぎわいにつなげるという意味で行けば、今回市役所前の中央公園なんかを考えてみるのも1つの方法かなと。それで結構盛り上がった後に、そのまま川端通り、また武雄のまちの中に流れていただくというような、そういう流れができないものか、それについて御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、いい案だと思いますね。武雄市役所前の中央公園については、川端の飲食業組合の

方からも非公式に実は私のところに話が来ております。そういった中で、ぜひ私としては、これも議会と取り計らいを、また、御指示をいただきたいと思っておりますけれども、諸条件が許せば、ぜひ中央公園で行いたいと思っております。それをやることによって、実際屋台でもまた出してもらって、飲食をしながらパブリックビューイングということになると、その実際の時間8時半から始まる。例えば、6月19日土曜日なんですね、しかも。土曜日で対オランダ、これは優勝候補ですね。20時半からということになると、もうこれがベストタイミングだと思いますので、私としては、ぜひこの時間帯に合わせて中央公園で開ければいいなというふう思っておりますし、それともう1つが、せっかく1回設置するのであれば、結構この前もそうだったんですけれども、ハイライトのシーンとか、あるいは物すごくいい、アルゼンチンとかブラジルが出てきたときの録画も含めて、たった1日だけやるのはもったいないですので、この期間中は、例えば何時から何時までというふうにして、このパブリックビューイングだけでなく、著作権とか放映料の関係がありますけれども、少し期間を長目にしてやりたいなというふうに思っております。武雄市といえば、ワールドカップ。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

本当に、私もキーになる試合は2戦目のオランダだと思います。負け負けで3戦目となると、もうトーナメント進出の可能性もなくなりますし、1戦目の勝敗次第で、2戦目の勝敗が大きくかぎを握ってくるところでもありますので、まあメインに持ってくるのは、もうここかなというような感じもしておりますので、ぜひ武雄市発展のためにも、利用させていただけるものはすべて利用していくというぐらいの気構えでいないとだめなんじゃないかなと思っておりますので、よろしくをお願いします。

続きまして、子どもたちにちなんでの事業で、これは私、非常にいいなと感じていたのが子ども議会、また、子どもたちを対象とした市長と語る会ですね。子ども議会は市内の小・中学生が一堂に代表としてこの議場に集まり、そしてさらには、武雄ユナイテッドチルドレンの高校生たちの参加の協力をいただいて、有意義なものになったと思っております。

子ども議会は、行われたすぐですので、来年度のほうはどういうふうになるかは、まだ今からだとは思いますが、子どもと市長の語る会について、私の記憶ではいじめに悩む子どもたちの声が聞けて、子どもたちの気持ちが救われたようなことを、この場でも、またブログでも公表されていたと記憶しております。ですが、その後に開催されたようなことをちょっと聞き及んでいませんので、これまでの実施状況はどうなっているのか、これもやはり需要と供給のバランスが大事になってくるかと思っておりますので、これについて御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

お答え申し上げます。

先ほど議員が申されたように、メインテーマと申しますか、決めて全校的にということはございませんで、必要に応じてその都度やらせていただいていますし、まあメイン的に決めて全校やったほうがいいのか、あるいは地区地区、中学校校区あたりでやったほうがいいのか、そこら辺はいろいろ検討しながら、そのときの時勢時勢でまたやらせていただきたいと思いますし、当然子どもたちも市長、そして教育長と懇談をするということによって、いろんなことも、また励みになるようなこともあるでしょうし、楽しみにしているということもあるというふうに思っておりますので、ぜひ実施をしていきたいというふうにも考えております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひ、子どもたちとのかかわりというのは非常に重要になってくると思いますので、継続をお願いしたいと思います。

次に、イノシシについてであります。

いのしし課でありますけれども、市民の皆さんの中でよくお話が出てくるこのイノシシですね、このいのしし課の最大の目的というは何なんでしょうか。イノシシの駆除が目的なのか、それともイノシシ肉を特産品にするのが目的なのか、まず率直に御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いのしし課のまず第1の目的は、武雄市からイノシシの被害を減らすこと、第2の副次的な目標として、せつかくですので、マイナス財産をプラスの財産にしたいということで特産品化にするということで、優先順位はあくまでも被害防止策であります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

もうまさしくそうですね。私もそういうふうに認識しておりましたけど、市民の皆さんと話していると、結構イノシシ肉の特産品化が、そっちのほうが目的が多いみたいな感じで受

け取られとったもんやけん、ちょっとそこを確認させていただきました。

これも、私も周辺部の皆さんと特に話をいろいろさせていただいて感じたのは、全く今の段階で、どっちつかずじゃなかですけど、中途半端やなかかなというような声がやっぱり上がってるわけですね。私も個人的にもそう思うところがあります。というのが、いろいろお話しをしていく上で、「確かにイノシシ減った」と言うてもらえる方も結構いらっしゃいます。その効果というのは、やはり上がっているなど。それを聞いたときは、私物すごうれしかったし、ああよかったなと思ったとですけど、でも中には、別の地区に行けば、「全く減とらん」「何も変わらん」と言いんさつ人もやっぱりおんさつわけですよ。そういう声を聞く上では、やっぱりもっと、武雄の人口とあんまり変わらんぐらいのイノシシがおると言われとるわけやっけんが、やっぱり駆除をもっと徹底的にやっていかんばいかんとやないかと。

今度逆に特産品のほうから見ると、旅先に行って、特産品なり、やっぱり地元の特産品を口にしたいというのが旅行者、またよそから見えられた方が思われるものかなと思うんですけど、そのイノシシ肉を利用した調理というのは、もっともっと進んでほしいけど、話を聞くとやっぱりこのイノシシ肉は高過ぎるという声が多々あるわけです。これを調べていくと、最も高いロース肉で100グラム525円というふうに値段がなっております。やまんくじらのパンフレットですね。飲食店の皆さんと話しても、100グラム525円、これ税込みですね。

「525円するなら、豚とか牛でももっとあるもんね。わざわざ無理してイノシシを使う必要はない」と。「でも、せっかく市が力ば入れてしよるということやっけん、おいたちも協力はしたかばってんがコストが全然合わん」という声しかちょっと聞かない状況です。こういう声は行政のほうに届いているかどうか御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

届いております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

ですね。であれば、最大の目的は駆除であれば、もっと補助金投入してでも、徹底的に駆除をまずやろうよと。お金をかけてでも、駆除に、お困りの方は本当にいらっしゃいますもんね。これはもう、ちょっと高齢者というか、年配の方でしたけれども、「全く減らんけん、どがんかしてくいろ。うちの農作物はしっきゃやられてしまう」と言うて、本当に涙流されて話したですもんね。それ聞いたときは、ほんなごてもう心痛んだとか何とか、もう言いようがありませんでした。だから、あくまでも駆除を、もうとにかく徹底的に税金を

使ってでも、予算を使っても駆除をやる。で、駆除をした、そこに投入した分は肉に反映させんでよかわけですよ。そのままイノシシ肉で利益を出そうとするから、どうしても高い値段になっていくんじゃないかなと。

私の個人的な考えからいけば、駆除をしました、処分するのがもったいないから、それを特産品化に持っていきこうと。肉自体で利益を出さなくても、その肉を利用された業者の人、飲食店の人がそこで利益を出されれば、武雄の特産品化として十分役をなすんじゃないかなと、私は個人的にそういうふうに思っています。ですから、肉には、売価に乗せるのは、さばいた方の人件費であったり設備の分であったりと、そういう考えができて、販売業者が利益を出してもらおうと、そういう特産品化の考え方を持っていたきたいなと思いますが、これについてどう思いますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

半分はそうだなと思うんですけども、あくまでもお肉の売買というのは、公が介入するというのはよくないと思います。あくまでも市場価格があって、そこで今のところ、やはり高額で取引されてやっぱり買う人がおるわけですよ。そこで高どまりになっている。そこでぜひお願いがあるのは、実はこれは経済学の原則ですけども、いっぱい需要が出てきて食べる人たちがふえれば下がるわけですよ、こっちが供給するということを前提に置けば。ですので、やっぱり「みんなで食べましょう運動」を起こすと、それがおのずと売価の低減につながります。

今、確かに高いというふうに言われますけれども、例えば今さっき100グラムで500幾らと出ましたけど、同じ値段だと、例えば丹波篠山だとその2倍から3倍するんですね。ですので、今考えたいのはそういう外に売るもの、武雄のイノシシということで東京の伊勢丹とかでも問い合わせがあります。そういったところは高く売る。それと需要がふえてきて、地元の皆さんたちには安く売るということで価格の2層化を進めていきたいというふうに思っております。いずれにしても、いっぱいとれて、それを出すということになろうかと思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

すみません、時間が来ました。4月1日の日に社団法人武雄青年会議所がmanifestoの公開説明会を実施します。午後6時から文化会館小ホール。今回の改選期を迎えて、ぜひmanifestoで戦っていただきたいなという希望を持ちまして、私の一般質問を終わらせて

いただきます。

どうもありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で1番上田議員の質問を終了させていただきます。

次に、19番山口昌宏議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきましたので、皆さん方同様に19番山口の一般質問を始めさせていただきます。

きょうの朝一番で、上野議員が一般質問をされましたけれども、そのときは後ろのほうで傍聴者がたくさんお見えで、「頼むけんが私のときも1人ないとんおってくんしゃいね」とお願いをされましたけれども、無駄でした。今の私の一般質問に向かう気持ちとしては、今外で雪が降っていますけれども、あのよう気持ちの中、心の中は真っ白でございます。そういうことで、執行部の腹も真っ白でございます。執行部の方も、簡潔に御答弁をいただきたいと思えます。

私は、市長の4年間を振り返ってということで質問を出しておりますけれども、まず、市長に4年間を振り返っての今の気持ちをお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

振り返ってみますと、もう無我夢中で市政を預らせていただいたことに尽きます。私が市長にならせてもらったときというのは、本当に率直に言って、18年間武雄を離れていましたので、ああ、元気がないなということは思っていました。その元気の源に火をつけて、それをさらに武雄のポテンシャルティーを生かして伸ばしていくということと、もう1つが、やっぱり弱い立場にある方々が、武雄に住んでよかった、あるいは生まれてよかった、お嫁に来てよかったと言ってくれるような市政にしたいということで、本当に振り返る間もなく、この4年を迎えたなあというのが実感であります。

もとより、がとない部分があります。それはおしかりを受けながら、あるいは御批判も賜りながら進めてまいりましたけれども、一度たりとして、自分のためにということで思ったことは1回もありません。これだけは胸を張って言えることだと思えます。あくまでも、市民の皆様方のために、将来を担う市民の皆様方のために市政運営をしてきたということ、これは、これだけは私はどなたに対しても胸を張って言えることだというふうに思いますが、ただ、いかんせん、至らぬ部分も多々ありましたので、その面で御不便や御迷惑をおかけしたということは、私の人間的なまだ未熟さのあらわれだと思っていますので、それは直して、また市政運営をしていきたいなというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

今いろいろお話をさせていただきましたけれども、私の気持ちの中では及第点かなと、私は思っております。

まず、質問に入りますけれども、まず1点目は2月27日に、これはNHKのニュースだったと思いますけれども、「市民病院移譲で住民監査請求が提出された」と。これはあくまでもNHKのニュースだったと思うんですけど、その代表者は城島さんだそうで、この方は天神区の区長さんだそうですが、天神区の区長さんということは、武雄市の駐在員さんですよ、どうですか。どなたか答えられますか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

そうでございます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

駐在員さんということは、武雄市から40万円、手当と言ったら失礼ですけども、出しているわけでしょう。それに話を聞けば戸数割が入っているわけでしょう。天神区の戸数割をちょっと調べさせていただきましたけれども、175戸、1軒当たり2,380円。これを合計しますと41万6,500円、トータル81万6,500円というお金をもらっておられるわけですね。そういうふうな方が代表者として、住民監査請求の代表者としてなれるのかどうか、その辺のところどなたかお答えできますか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

住民監査請求につきましては、何人とも監査請求できるということにはなっております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

ということだそうです。

それでは本題に入りますけれども、1番目、土地、建物を不当な単価で販売をした。2、

民間移譲決定後に新たな医療機器などを購入して、無償で貸し付けている、この2点で出されているようですけれども、これが新聞とテレビであったときに、私のほうにも問い合わせ等々がありました。ほんなことやということでの問い合わせがっておりますので、その辺について市長、詳しく答弁をお願いしたいんですけど。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは平野議員様にもお答えした答弁になりますけれども、病院事業に適用される地方公営企業法では、法第40条に地方自治法の適用除外規定があります。その中で、地方公営企業の業務に関する契約の締結並びに財産の取得、管理及び処分については、条例または議会の議決によることを要しないとされていることから、土地、建物等売買契約を初めとする上記の契約について、事件決議議案として議会の議決に付してはおりません。これが前提であります。この法第33条に地方公営企業の用に供する資産の取得、管理処分は管理者が行うこと、そして、資産のうち、その種類及び金額について政令に定める基準により条例で定める重要なものの取得及び処分については、予算で定めなければならないとされています。

武雄市も法治国家であります、法治市であります。このため、重要な資産の処分として、土地、建物、建築物の処分にかかる予算を平成21年度当初予算へ計上し、21年3月議会で可決をしています。土地、建物等売買代金については、平成20年10月1日と移譲直近平成21年11月1日時点での不動産鑑定算定の算定をもとに確定をしております。そのため、最終的な売買代金3億8,905万円については、21年12月議会の予算審議で御審議の上、可決をされています。

医療機器等の購入についても、当初予算、補正予算等の審議の中で十分議論を尽くされ可決されたものであります。すなわち、議会の予算審議を経た上で決まっておる。不動産鑑定価格も第三者の不動産鑑定士が入って、この額が望ましいということで、それを我々は受けて出しているものであり、何らこれで不公正であるとか、非中立であるという非難には当たらないと認識をしています。

さらに、医療機器等資産の無償貸し付けにつきましては、平成20年5月臨時会で可決された武雄市立武雄市民病院の移譲に伴う特別措置に関する条例の第3条に、移譲に伴う資産の譲渡又は貸し付けの特例として条文に明記をしています。これを根拠として、新病院が新築移転するまでの期間については、無償貸し付けの契約を締結しております。契約について、議会の議決を経ていないのは、地方公営企業法第40条、冒頭に申し上げた規定に基づくものであります。したがって、これも議会の議決を経ています。

さらに、昨年12月議会の黒岩議員からの一般質問の中で、新しい病院ができるまでは、市民の皆様のために医療機器は無償貸与すべきではないか、最後にお金の計算をしてよいので

はないか、医療をこのまま続けるべきではないのかという御質問、御意見をいただきまして、私としても、黒岩議員と考え方を同じくするものという答弁をしております。

この医療機器の問題については、ことし1月20日開催の市民病院問題調査特別委員会でも、本年2月以降の医療機器の取り扱いについて、慎重に御審議をいただいたところであります。その中で、新病院が新築移転するまでの間、継続して市民の医療を守っていく立場から、今ある医療機器等の無償貸し付けの方針も御理解をしていただき、私はその報告を受けて、あわせて意思決定をしたところであります。すなわち、これについては、条例あるいは予算、議会の特別委員会での審議、幅広い意見をいただきまして、私もNHKのニュースで、城島さんという方が出されたということで見ましたけれども、その中に首長の市長の裁量権の逸脱だということがありましたけれども、首長の裁量権というのは議会で決まります。議会の中で決まったその枠内で、どういうふうにしようかということがありますので、私としては、このNHKのニュースしか私は知りませんが、全くその批判は当たらないと。

あわせて、さきの、その後のNHKのニュースで、この一般質問で平野議員の御質問の後の私の見解が出ましたけれども、その場でもテロップに誠心誠意進めてきたということ、そして何ら問題はないということで、NHKさんにおかれましては、再三報道もされておりますので、これに対する批判ということは、私はそれ以降はもう耳に入ってこず、もうあのNHKのニュースでよくわかったということで私は一安堵をしております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

これはあくまで私の気持ちなんですけれども、例えば3億9,000万円で土地、建物を譲渡したと。私に言わせれば、よう3億9,000万円も金を出して、あの土地を、建物を買ったなど。借りとったら、新しい病院ができたときには固定資産税も何も払わんでよかわけですね。今の病院を買った部分をこうして皆さん——皆さん方って、担当者をお願いをして、「大体固定資産税はどんくらいぐらいもらわるとや」と聞きよったら、「土地、建物で、大体年間500万円ぐらいもらえるやろう」と。あの古いて言うたらおかしいですけど、今の病院です。あれを固定資産税は500万円もらった上に3億9,000万円で買ってもらった。何が問題あるのか不思議でならんです。

それと、医療機器を無償で貸すと、無償で貸しているという部分なんですけれども、特別委員会の中で提出をしていただきましたけれども、ないだけ見しゅうごとなしや、我々にとっては字の見えんとですよ、こめえして。そいぎ眼鏡ばかりかけてこうして見よっぎ、757品目の医療機器かれこれがあるわけですね、この中で757品目。その757品目の中の653品目、耐用年数切れとととです。一番ひどかとは、耐用年数5年で書いてあつとに対して、もう36年

8カ月過ぎとつとのある。それだって、5%はちゃんと金の載つとつたですね、帳簿価格で。そいぎ、もう大体勘定するぎ約1年以内に耐用年数がなくなるの、要するに来年新しい病院ができるときに耐用年数がなくなるものも入れたら、あと残り50品目ぐらいしかなかとですよ、実際。

1日目やったですかね、平野議員の質問は。その1日目に平野議員も一生懸命助け船ば出しよんさつばってん、なかなか乗ってもらえじ、その平野さんも、ちょっとかゆいところに手の届かんような顔してから質問をしよんさつたですけれども、まあいずれにしても、残るのは50品目ぐらいしかなかとですね。その50品目の中で今度は、これは私の考えですよ、持っていかれん分のあるとですね。もし、すべてを買うとして、持っていかれん品目の十ぐらいあつとですよ。そいぎあと残りは幾らか、40品目ぐらいですね。

そして、値段の高かぎ高かほど、例えば5,000万円の機械があつたとする。そいぎ耐用年数5年とするでしょう。そいぎ、1年に1,000万円ずつ下がっていくわけですよ。そうなれば、なか頭を一生懸命になつてこう考えたぎ、よう考えたぎ、何も1億円も幾らもありゃせんわけですよ、考えたら。そいぎ、そこで1億円もなかくらいの機械器具を、そこまでいろいろ言つてまで、その住民監査請求をしてまでしなければいけないのかなと私は思っております。

これはけさの話ですけれども、新武雄病院に行く用事が私にはありましたので、新武雄病院に行つてきました。そいぎ、救急車が2台とまつとつたわけです、救急車が2台。そいぎ、何かお年寄りの方のようでしたけれども、その中でやっぱり心配そうに家族がおんさつ中でいろいろは聞かれんけん、「救急車、どこから来た」とだけは聞きました。そいぎ「武雄と多久」て言われました。そのときに私がその心配そうな家族の方を見て思ったこと、それは、人の命を守るためにこの医療機器を無償で貸したのがなぜいかんとやろかと。人の命と医療機器とどっちが大事なのか。武雄市民の命と、この40か50の医療機器とどっちが大事なのか、その辺のところについて、市長答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう全くおっしゃるとおりだと本当に思います。それで、私も何もそれを無償で渡したとかというのは一言も言っていないんですね。この議会でも何度となく、病院が移るときに、その使つた減価償却分まで含めて、そこで決算をするというふうに申し上げているんですね。なぜこのタイミングで、しかも実際医療が行われている、一生懸命今、新武雄病院に2月1日からなつて、一生懸命スタッフの皆さん頑張っています。その中でなぜ住民監査請求が起きたのかということについては、私は多くを語ろうとは思いません。しかし、この一般質問の場を見られている市民の方々がどのように考えてられるのか、この市民の皆さんたちの

意見に私は耳を澄ませていきたいというふうに思っています。

もとより、そういう器具の話も大事な話です、大事な話。これがないがしろにするとか、そういう意味ではありません。しかしそのタイミングというのがあります。それよりも、今そこにある命を助ける、私はそういう思いで新武雄病院に期待をしたいと思ひますし、事務的にはそういうふうにサポートをしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

いずれにしても、市民の皆様方の命を守るため、今後も新武雄病院が一丸となって頑張っていただけのもとの確信をしております。

次の質問に移ります。

次の質問は、樋渡商店の3大目玉商品を検証してみたいと思ひます。私は今回、3大目玉商品の検証を、市民の目で、我々のこの市民の目で検証をしてみたい。

まず第1点目、「がばいばあちゃん」。この「がばいばあちゃん」の第2弾、果たして2匹目のドジョウがいたのかどうか、御答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

2匹目のドジョウはいました。視聴率が武雄市で80%を超し、83.2%、佐賀県内で61.1%、そして全国的に見ても非常に高い視聴率、ドラマ部門の中では同時間帯では断トツのトップだったといったことから勘案すると、樋渡商店——私、商店じゃないんですけど、御心配をいただいたと思うんですね、このチラシは。そういう温かい気持ちだったと思ひますので、それは私も温かく、2匹目のドジョウはおりましたということで、これを今度第3弾に結びつけていく。市民の皆さんたちも今度第3弾いつロケがあるのとか、いつ放映されるのという、もう次に進んでいますので、そういうお気持ちにまた耳を澄ませてまいりたいと、このように考えております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

これは（資料を示す）先ほどの上田議員の分の「週間文春」の記事の中を、上田議員に了解を得てパクリましたけれども、「優しいお湯のあふれる温泉地武雄、がばいばあちゃんたちも健在だ」で。「週間文春」で書いてあつたですね。1月21日号。「がばいばあちゃん」でテレビも健在やった。そしてこの作家の下重暁子さん、それから先ほどの嵐山光三郎さんで

すか、この人たちもそう思っておられるんですよ。

そして、ここで1つ皆さん方にちょっと御紹介をしたいんですけども、市長と武雄市の東川登町で市政報告会をしたときに、まず永野の例をちょっと言ってみたく思いますけど、永野でそいばしながら話をしよったら、「おいおい、ちょっと来てんさい」。何やらかにかやと思って、「あのさあ、山口県に行ったもんの。金子みすゞ記念館におどん行ったとき」と。そいぎそこで私のごと佐賀弁でしゃべんさっけん、そいぎあんたたちはどっからのまいては言いんさらんやたらぼってん、「あなたたちはどちらからですかて聞かした。そいぎ武雄ですからですよ」、「ああ、がばいばあちゃんのとこね」て。そこまではよかったとですよ、がばいばあちゃんのとこねて。あんまり褒みゆうごとなかとぼってんが、「その市長さんは若かてやろう。一生懸命頑張りよんさってやろう。よか市長さんば持ってよかったねて」、ここまで言うてくんさった。これは私が言うたとやなかです。そのみすゞ記念館に勤めよんさっ人が言われた。

そいで、今度はその次の日の次の日か、私東川登の袴野というところに行って、市長と市政報告会をしたときに、永野でこうこうこうしてみすゞ記念館につて言いよったぎ、「うんさい」と言わすわけですよ。「ちょうど私もそんなときおったとよ」て。その人は女の人やした。「私もそいは聞いた」と。何で武雄市の市民の皆さん方、温かい目で見てもらえんとやろうかと私は思うんですね。

よう考えれば、「がばいばあちゃん」、レモングラス、イノシシ、この3つは樋渡市長が市長に就任して以来、ここにデータもらっていますけれども、562の議案が提出をされているわけです。その中の「がばいばあちゃん」とレモングラスとイノシシ、この3つでしょう。言いかえれば562分の3なんですよ。あとの残りはそいぎどかんすつと。あとの残りも一生懸命なつてしとうでしょう、ですね。そいじゃ、ここば言うとであればですよ、固定資産税ば今度4月から下ぐつとも言わんばいかなでしょう。なして重箱の隅ばつづくごたつことばせんばらんですか。もっと温かい目で見つとが市民じゃなかですかね。私はそう思うとつとですけども。

レモングラスだつてしかりです。何じゃい、このごろ、レモングラスというのは、大学の先生がほんにいろんなことに効くとかという話をされているようですけれども、レモングラスだつてそう。いのしし課だつて、さっき上田議員のほうからイノシシの話があつたですね、パトロールの話。1つは紹介しましょうか。

イノシシのパトロールしよつとき、うちのおやじの話で恐縮なんですけれども、うちのおやじは93歳ですね。うちの裏にイノシシが来るわけですよ。裏は学校ですよ。そして西のほうは水路なんですよ。水路2メートルぐらいの水路なんです、ここ飛び越えてイノシシが来るわけですね。このおやじがどこに電話したかというといのしし課に電話したとでしょうね。そいぎ、イノシシパトロールをしている方2人がすぐ来てくんさつたと。そうしてその方た

ちが何をしてくれたか。あの猟友会の方に連絡をして、イノシシわなばかけてくんさいて。そしてイノシシわなをかけてくんさったばってん、とれんやったです。さすがイノシシも頭よかごたっにはと思いたですけれども。そういうことで少しでも被害を早目にとめようという努力は、言えばちゃんとしてもらえるんですよ。無駄じゃないんですね。そういうことで、何でもっと気持ちを大きくして温かい目で見てもらえないのかなと、そういうふうなことを思えば本当に寂しいですよ。

そしてもう1点。次、その3大目玉商品の検証ばて書いてあるその横に「ワンマン市政からみんなの市政」て書いちゃっです。この10の重点公約を公表と。10個検証ばすっぎにや時間のなかけんが、初めから3つだけいきます。

固定資産税と公共料金を引き下げます。固定資産税、水道料金、給食費、その他の公共料金の引き下げを検討。今、武雄市はどうされていますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

固定資産税については、ことしの4月から1.55を1.48に引き下げてまいります。水道料金につきましては、2年前の4月から平均十数%下げしております。したがって、もうこれ以上引き下げとなると財源が見当たりません。そういった意味で目いっぱい――宮本議員よろしいでしょうか、目いっぱい下げているところであります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

まだほかにも子どもの就学前の医療費の無料化したですかね、でしょう。

そしてもう1点、もう2点か。次が副市長のうち1名を女性にします。今副市長1名ですね。ということは副市長をもう1名ふやしますということですね、でしょう。そいぎ、その副市長、そしてもう1人の男性副市長は市内の人材を登用しますて書いてある、ですね。古賀副市長には本当にすみません、中身をちょこっとだけ触れさせていただきますけれども、退職金まで入れたら4年間で約5,000万円ぐらい要るわけですよ、副市長さんば1人置くぎですね。こここのところ覚えとってくれんばいかんですよ、4年間で約5,000万円ですね。

そして、3点目の市長の退職金ゼロにしますとあっです。この市長の退職金ゼロにしますというこの問題で、その中に何て書いてあるかということ、市長の退職金は約2,000万円です。市内の民間会社と比較して破格の多さですて書いちゃっです。そいぎ、この方は県庁の職員さんやったですね。県庁の職員さんの退職金な、どんくらいやろうかにはやと思っであっちこち、つてを回りながらお尋ねをしました。そしたら、約3,000万円強、三千四、五

百万円ぐらいはあるとやなかろうかと、あの偉か人たちの退職金はという話なんですね。これも覚えとってくださいよ、三千四、五百万円ということですね。

私に言わせれば、その退職金が民間よりも余りにも多かけんが、私は要らんけんがというて、県庁時代にそいば断つとんさいないば、こいも納得できます、ですね。そいぎにや、市長の退職金をゼロにします。私は退職金ば1回もろうたけんが、2回目は要りませんよて言いよんさつとですか。それでも、さっき言うたごと覚えとってくださいよて言うた部分、副市長さんばもう1名ふやせば5,000万円要る。市長の退職金が約2,000万円強て書いてある。その差は3,000万円なんですよ。そいぎ、その3,000万円という金、先般の一般質問の折に23番議員、無駄を省いてほしいて言いよんさつたですね。無駄ば省かんばいかん。武雄市は財政が厳しいから、23番議員も無駄は省きなさいとて言いよんさつ。前田議員も厳しい財政て言い、（発言する者あり）13番議員も厳しい財政だから無駄を省いてほしいとて言われた。そしたら、この3,000万円というのは無駄じゃないんですか。答弁できますか。（発言する者あり）何か答弁し切らんとか言いよんさつけんがよかです。

いずれにしても、無駄を省こうという気持ちはみんな一緒なんですよ。そういう中で、せめてこういうふうなどを書くのであれば、もう少し考えてほしいな、せめて武雄市の財政を考慮しながら書いてほしいなと思っております。

どうろ答弁をもらえんごたっけん、次の質問に行きます。

何じゃい、検証の中でいろいろ言っておりますけれども、次の質問は、またこれT氏のことですね、後援会の事務所開きのときに、後援会の副会長さん、名前はようわからんけん読み切らんですけれども、田崎何とかさんの副会長さんのあいさつの中――なし私がこいば知っとうかというぎ、うちの子どもいわく、「樋渡市長の話も聞いた。ばってんT氏の話も聞かんばわからんやろもん。市長の話じゃなかけど、多聞第一。ほかん人の話も聞かんばいかん」ということで、うちの子どもも勉強のために行きました。そういう中で話があった中に、「市長が足を机の上に上げて職員さんを叱責していたという発言のあった」、うちの子どもが帰って来てからそがん言うた。こい、真実かどうかて聞くときにはどなたに聞けばいいのかな。言うた本人、よろしくお願ひします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この話を私も間接的に伺ったときには本当に心を痛めました。もとより、事実がある話でそれに批判をいただくということであれば、私も改善のしようがありますけれども、全くそういう事実がないわけですね。

それで私は検証を試みました。明るる朝、机の上に足を――だれもおんされんときですよ、市長室1人のときに上げてしたときに、もった時間たった3秒です。なぜか。いすの下

にころころのあっわけですよ、ころころの。そいぎ物理的にもあり得んわけですね。ですので、本当にこれは心を痛めて、何でもこういうことを事務所開きの際におっしゃる必要があるのかということについて、本当に私は重ねてでありますけれども、小さい心を痛めました。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

あいさつの中で、市長が足を上げて職員さんを怒りよったという話になっておりますけれども、そしたらこい、あつてないことを言ったということは、今まさに事務所開きですから、選挙管理委員会としてはどのように考えていますか。

○議長（杉原豊喜君）

大宅選挙管理委員会事務局長

○大宅選挙管理委員会事務局長〔登壇〕

御質問の事務所開きのあいさつの中で、市長の職員に対する態度について発言を行ったという事実につきましては、当該の方については認めておられます。発言は足を投げ出して職員をしかるようなリーダーは要らないというふうな旨の内容でございます。

議員の質問に関係する規定といたしましては、事務所開きのあいさつの中で言及された内容が事実無根であるとするならば、公職選挙法第235条の2項の虚偽事項の公表罪が考えられます。虚偽事項の公表につきましては、買収行為、あるいは選挙の自由妨害などとともに、選挙員の公益性な判断を誤らせる原因となるということで、選挙の自由公正を害するところが大きいというようなことで規定が設けられております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

もしですよ、もし私とその立場やったら、私は気が小さいですから言い切らんけんが、私は警察に告訴すつですよ。相手方さんには言い切らんけん、私やったら。市長どうですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに、これは機微にわたりますので、慎重に言葉を選んで答弁をいたしますけれども、告訴については、非公式に勧められました。さまざまなところから勧められて、ただ思ったのは、これをもし私が告訴をして当該の方が、例えば警察で取り調べ等が行われるということになった場合に、私は負の効果が大きいと思いました。というのも、武雄はもともと政争のまちだということを言われていて、これに私がそういうレベルで乗っかっていくと、ます

まず政争のまちのイメージが悪化、固定化するといったことは私はどうしても避けたい。したがって、私は言葉は憎みますけど、人は憎みません。そういう思いで、ぜひ後援会の——私もこれは公にも認められているということで私も伺いましたので、そのおっしゃられた後援会副会長の田崎さんにこの場をかりてお願いがあるんですけども、ぜひその、言い方悪いんですけども、そういった文言をおっしゃって、ある意味、ありもしないことをおっしゃる、これはありもしないことをおっしゃるといことは誹謗中傷です。そういったことを言うエネルギーを、ぜひ政策、自分たちは、あるいは私はこういうまちにしたい、こういう北方にしたい、武雄にしたいということをぜひおっしゃっていただければと。やはり、私は画家だと聞いていますその方は。やっぱり人間には絵心が必要であります。その絵心を、ぜひこういうまちにしたいということで、ぜひそのエネルギーを転化をしていただければありがたいというふうに思います。私の気持ちは、言葉は憎みますけど、人は憎みません。そういったことで私の答弁にかえさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

議長が私の顔をにやっと見て、うん、こううなずく。まあいずれにしても、こういうふうな話が出るということは、市長の気の緩みがあったからではないかと思うわけですね。昔から言うてある、火のなかところに煙は立たん。しかし、今回はたまたま火のないところに煙が立ったんですね。ということは、市長に気の緩みがどこかにあったのではないかと。今後このようなことを、誹謗中傷を二度とされないように気を引き締めていってもらいたいと思います。

では、次行きます。

大体ここ企業立地課ですけども、ここまでどうするかな、行くみやあかな、行こうかなと考えながら、時間がありますので、企業立地課をちょっと。

市長の就任以来、4年がたちます。その4年間の中で、工業団地のほうに来るよ、来るよと言いながら来んやったり、あるいは厳しい状況ですから、もうしばらく待ってくださいと言われてたりということで、いろいろあっております。この4年間を検証する上で、企業誘致の状況が現在どうなっているのかをお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事。

○伊藤営業部理事〔登壇〕

時系列で少しお答えをしときたいというふうに思います。

まず、就任以来平成19年3月、これはSUMCO関連の半導体メーカーでありますエピクルーが武雄工業団地に進出をするということで協定を結びましたけれども、その後の経済危

機で建設が中断をして、今、親会社の動向を見ている状況にあります。来年度からになると思いますけれども、平成20年5月、若木の工業団地に、あと残り1ヘクタールということで、新たな工業地が欲しいということで、県と市の共同開発によって、宮裾地区のほうに工業団地を着手するということを決断していただいて現在進行中でございます。

それと、上田議員の御質問にありましたとおり、平成21年4月に保養村にリジョイスが進出し、ことしの4月1日にグランドオープンという運びでございます。雇用の関係につきましては、市長のほうから答弁をしたところでございます。

21年6月、武雄の川良地区に、SUMCOの独身寮が江北町のほうにありましたけれども、これの建てかえの機に武雄市のほうが動きまして、これの誘致を行い、現在100戸、ですから100部屋でございますので、すべて埋まっている状況下にあります。

また、市長答弁にもありましたとおり、御存じのとおりでございますけれども、新病院の建設用地の裏っかわには、看護学校及びリハビリテーションの学校があつている状況であります。

ほか、さまざまな問い合わせについてはありましたけれども、まだ実現に至っていないという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

新武雄病院で約500人雇用、そいで何か生徒さんが242人。これは市長、ずうっと今まで寮は敷地内じゃなし、どこじゃい家ば建てたしやあしよらすもんねという話をされていますよね、市長が。こいは、病院の理事長さんとか蒲池会長に話ば聞くぎ何て言いんさつかというぎ、こう言いんさつわけです。「病院の見ゆつとこに看護師さんの寮とか先生の寮ば建つぎ、ストレスのたまる」。こいは何かて言うぎ、ごつとい病院ば見よるわけでしょうが。そいぎ、ストレスのたまつて言いんさつわけです。「そいけん病院の見えんとこに寮ば建てんばいかんと」、そが言わした。ああ、なるほどにやあて。がんこと言うぎいかんでしょうけど、ある人のポスターを私、室内用で家に張つとるわけですよ。そいぎ朝起きて顔見て、帰つてから面見つぎ、ぐあいの悪かごとあつ。そいと一緒なんですよ、ですね。そいけんが、やっぱり寮も、もっとほかんとけつくらんばいかんて言わすとはその辺なんです。ということは、もっともつと今から先——こい、そいこそ、まだ学生寮だけの話で、職員さん寮の場合はよそに建てんばいかんというような話もあつておりますので、もっともつと需要と供給の大きゅうな可能性だつていっぱいあるわけですね。ということは、武雄市が幾らないとん、ずつと前に榮えていく。マイナス思考じゃなくて、プラス思考でいこうと、それにはやっぱり4月11日の話のあつごたつけんですけんね、お互いに。まあ、そういうことで、その後の結果はどうであれ、武雄市が前の方に一步一步前進ができるような市政を、今後と

も我々を含めてやっていきたいなと思っております。

これで終わります、ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で19番山口昌宏議員の質問を終了させていただきます。

ここで議事の都合上、2時45分まで休憩をいたします。

休 憩 14時30分

再 開 14時44分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き一般質問を続けます。

次に、5番大河内議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

議長から登壇の許可をいただきましたので、私、5番大河内智の一般質問を始めさせていただきます。

今回、私は大きく3項目を提起いたしております。1つは、政策課題と市政運営について、その中に3項目、観光政策と、2つ目に農林業政策、そして3つ目に雇用、企業誘致についてということで行っています。大きい2つ目に、子育て、次世代育成支援についてということで、その1つに保育サービス、2つ目に放課後児童クラブの指導員の方の雇用条件について。大きい3項目に、新幹線西九州ルートについて通告をいたしておりますので、質問をいたします。

まず、1つ目の政策課題と市政運営についてでございます。この件につきましては、同僚議員からも多くの質疑も出ていますが、改めて樋渡市長は4年前、前進か停滞か、ぬくもりのある元気な武雄市をつくる政策提起をされて、そして1期4年、今務められています。今回の市長演告の中にもその一部ですが、市民病院移譲問題等を含めて樋渡市政の最重要項目であり、この問題に取り組む中で、私が絶対に忘れなかったことは、市民の立場・市民の目線に立つこと。とりわけ、弱者の方々への視点を忘れずに、さらには将来を担う子どもたちに財政的な負担をかけないこと、この問題を絶対に先送りしないこと、この思いの一存でありました。このことは、市民病院問題に限らず樋渡市政のすべての政策を遂行する上での根幹となるものであります、という演告がございます。

そういう状況の中で、演告はそれといたしますが、市民の政策の目線と、一方で市の市長の政策実現に対する取り組みの中で、若干差異がありそうな気が私はいたします。市民の立場からすれば、市政運営については、市民、住民の方は一定所得のある方々以上は、国税、県税、地方税、いわゆる市民税等の納税義務が憲法第30条でうたわれています。一方で憲法第25条では、すべて国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有するという項目も言われています。市民の方々、住民の命や財産、安全・安心な生活を求めて納税をし、

行政は市民の方々の負託要望にこたえるために、公平と公正な公共サービスを実現すべく、責任を持ってその業務に邁進されていると思います。

市長は、地域の悩み、悲しみといった現状を政策に転換させ、その政策を議会に提案し遂行するとも言われていました。議会や議員はその検証の責任もあろうと思いますので、今回、私は3項目について要点を絞りました。質問の順序をちょっと変更させてもらいまして、1つ目の観光の項につきましては、後のほうで質問させていただきたいというふうに思います。

そういう中で今回、農林業政策につきましては、私は12月議会で林業政策を訴えました。最近マスコミでも、林業政策につきましては全国的にも取り組みがされていますが、今回、農業問題にかかわる中で、レモングラスと、そしてその他の地場の産品についての取り扱い方について、まず質問いたします。

この間、武雄でも地場産品として、米、麦、大豆はもとより、キュウリやトマトやナスやチンゲンサイ、そして、カキやミカンなどなど多くの地場産の品物を農家の方々がこれまで営々として積み上げた取り組みの中で、J A、以前は農協の方々ともいろんな指導なりお互いの情報交換をしながら、育成なり産品の販売ルートもつくられてきました。これまでのJ Aとのかかわり合い、地場産品の販売ルートの取り組み等につきまして、市の行政サイドとして、どのような関係団体との連携なり、指導なり、共同歩調が取り組まれたのかを、まず冒頭お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

農林関係についての取り組みでございますけれども、これについては今現在、20年度からですか、レモングラスの課をつくりまして、そっちのほうはかなり目立っているという状況で、なかなか従来からの農政に対するものが何か薄らいでいるような感じが、それは、私は決してないと思います。そういうことで、例えば、米とか麦とか大豆とか、そういうものについても農協と連携をしてやっております。それから、園芸関係、畜産関係、いろんな活動の支援も予算を含めまして、決して予算が減ったとか、そういうことは一切ございません。

その中でJ Aとの関係でございますが、武雄にはいろんな特産品がございます。具体的に申し上げますと、J Aの集荷場を経由して出荷をしているものについては、まず、山内の集荷場については、これはJ Aの集荷場ですが、チンゲンサイとか、あるいはコマツナ、それからジネンジョですね。それから武雄の集荷場、これについてもチンゲンサイ、キュウリ、タマネギ、イチゴ、カキ、ゴーヤ、ナス、ミカン。それから大町の集荷場、これについてはタマネギが中心でございます。それから、鹿島のほうの集荷場についてはアスパラということで、J Aを通した出荷がされています。それから、J A以外の系統でございますけど、こ

れについては、JAの部会員以外の方とか、直接市場へ持っていかれる方、例えば、チンゲンサイとかイチゴとかミカンとか、そういうのがありますが、JAを経由したもの、それから経由しないもの、いろんな取り組みがありますが、全体的に市としては農政係を中心に支援をしてきたということがございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

加えて私レベルにおきましては、JAの永尾統括常務さん、そして、あそこに座っておられるJAの小池理事さんを中心として、公式、非公式にさまざまな意見交換をさせていただいています。その中で私は、JAは最も大切なパートナーの一つだということで心得ておりまして、いろんなJAさん主催の大会であるとか、総会であるとか、あるいは共済のものについては、私のスケジュールのあく限り必ず参加するようにしております。その中で、あと私が大切にしてきましたのは、現場の農業経営者の皆さんたちとの意見交換であります。黒尾のキュウリをつくられている皆さんであるとか、あるいは山内町でチンゲンサイをつくられている皆さんであるとか、さまざまな方々と意見交換して、皆さんたちの悩みや悲しみや苦しみを共有するということが心掛けてまいった4年間だったかなというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

私が住んでいる黒尾でも、エコきゅうり、これに非常に努力をされているところもあるし、JAで管理する中でも佐賀みどり支部でいろんな地場の取り組みもされて、それをお互いに情報交換しながら販売ルートの開拓等もされていることも、組合ニュースでも報道されています。そういうふうに、この間ずっとお互いに積み上げられてきた地元産品の取り扱い方の取り組みについても評価を今いただいているし、JAとも連携されているというふうに申されましたので、ぜひこれについては、中央の農政の中では、最近のマスコミ新聞では若干見直しでもしようかという方向もありますけれども、これはやっぱりお互いのいいところは、すぐれたところは学び合い交流し合いながら、お互いの連携をしていただきたいというふうに、この間の経緯を踏まえて思っているわけですが、そういう中で、今ちょっと出ましたレモングラスの関係です。

先日ですか、13番議員の質問の中で、レモングラスの状況についても御答弁がありました。が、実はレモングラスについても、地元の方々、期待と不安感も実はお持ちです。もちろんハッピーファーマーズ、一生懸命経営されています。私自身もお隣ですので、毎日見聞きし

ながら通っておりますが、そういう中で、実は13番議員の先日の答弁の中でも、レモングラスに対する直接効果と間接的な効果も説明がありました。もちろん、初期投資含めた立ち上げの場合の一定の費用も必要だろうということで、公費、いわゆる公的な資金として2,000万円から3,000万円というふうにも言われていますけれども、今回質問したいのは、先日の直接的な効果として、トータルで雇用の105人、2,000万円の数字が出ましたけれども、この直接効果につきまして、もう少し数字の内容を御説明いただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

昨日もお答えしましたが、再度お答えしたいと思います。

まず、直接的な効果でございますが、まず雇用関係につきましては、農事組合法人武雄育ちのハッピーファーマーズですか、そこでの雇用が合計で46名で1,200万円でございます。内訳として、20年度が21名の500万円、それから、21年度が25名の700万円ということで、地区的には黒尾、中野、川内でございます。

それから生産農家ですね、これについては4地区ございまして、トータルでいきますと、雇用の数は59名で810万円。内訳を申し上げますと、まず、中野みつば集落営農組織、そこが20年度で10名の120万円、それから21年度、11人の110万円。それから、若木の川内での雇用でございますが、20年度で7名の90万円、それから、21年度で8名の100万円。それから、次に黒尾地区でございますが、20年度で7名の100万円、それから、21年度で8名の120万円、合計の15人の220万円。それから、山内での雇用が20年度が3名の30万円、それから、21年度が4名の40万円、合計の7名の70万円ということで、トータル的に言いますと、105名の2,010万円という金額でございます。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

今あった分は、いわゆる雇用に係る分と思うわけです。そのトータル2,000万円というのが、私的に見れば人件費というふうに見ていいのではないかと思うんですけども、それとは別に、今度は間接的なかわりとして、5億円の宣伝効果含めてあったと言われていたんですが、実は3年間、武雄として3,000万円前後の公費が投入されていますけれども、当然、行政が行う以上、収支予測は出されて計画されていると思うわけです。この3年間での投資に対するもうけと申しますか、利益はどのような数値に出されていますか。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

まず、先ほどの3,800万円の数字につきましては、人件費を含んだ金額でございます、いわゆるレモンガラスに使った、例えば、需用費とか旅費とか、そういうのは3年間で約1,000万円でございます。

それから、農事組合法人の決算でございますけれども、これについては20年度が初年度で、実際のレモンガラスの販売については3カ月から4カ月という期間でございます、まず、初期の設備投資もございまして、当初の年度は若干の赤字が出たという報告を聞いております。それから、2年目の21年度、2期目でございますけれども、今現在、税理士のほうに頼んで決算書をつくっておりますが、売り上げ的には約1,700万円程度の売り上げがあったということで、21年度については損益で若干の黒字ということ聞いております。

それから、あとの効果でございますけれども、きのうも言いましたように、民間の会社等がいろんな商品の開発を、20から30種類の商品ができております。それが今から徐々に拡大しますと相当な効果があるということで、そこら辺の効果についての試算は今のところやっています、特にきのう言いましたように、例えば、介護用の歯磨きとか、あるいはノロウイルスとか、そういう殺菌の効果のある殺菌剤とか、そういうのが大学との研究の中でやっておりますので、そこら辺の効果は今から出てくるものというふうに考えます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

あわせて間接効果でありますけれども、経済産業省のマーケティングアドバイザー、これは何度も答弁をさせていただいておりますけれども、約5億円の広告効果を含む経済効果があるという認定を受けております。

その中で、先ほど実は私のところに電話がありまして、きのうのブログにも載せたんですが、このブログを見た人で私の知人なんですけれども、紀ノ国屋で都内で8店舗、レモンガラスを、あと恵比寿堂のせんべいを含めて出ているんですけれども、今、佐賀フェアを、日本で一番の高級スーパーです、ここに出るということは、いろんなバイヤーが全国から見られますので、あわせて全国に広がる可能性があります。

スーパーの中での伊勢丹というふうにとらえていただければ結構なんです、今、その中で一番売れているのがレモンガラス紅茶、レモンガラス緑茶だそうです。したがって、やはりもともと私たちが意図していた以上に、レモンガラスというのが生産農家の人たちが一生懸命つくられている。そして販路を、レモンガラス課を中心として行った結果、確かにトップセールスは私がやりましたけれども、後に皆さんたちが一生懸命追従をしてきた。これは黒岩議員の御質問でありましたけれども、「がばい武雄」ということで、一つはレモンガラスということで、武雄の知名度そのものも上がっているということについては、これは議員

も否定をなさらないと思っていますので、そういう有形無形な効果はあったものというふう
に認識をしています。

あわせて今度、NHKの番組でも流れますけれども、NHKの前の代々木公園で、また佐
賀、全国のフェアがあったときに、これは今度、武雄産のイノシシが中心になりますけれど
も、あわせてレモングラスであるとか、武雄の黒米であるとか、産品がさまざま出ていきま
すので、私とすれば経済効果を、もちろんそれは大事だし、重視してきましたけれども、い
いきっかけになったのではないかなということ、この3年間でそういうふうに総括をして
おりますので、本当にいろんな宣伝をしていただいた議会の議員の皆様方には、この場をか
りて御礼を申し上げたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

直接間接効果を含めて、今、数値もされましたが、法人化された事業団体の中では、20年
度が赤字、21年度は売り上げとして1,700万円であり、黒字化になるのではないかというふう
に提起をされました。私自身も毎日通る中で、一生懸命働いていらっしゃるんですが、確か
に作業としては手作業で、相当人件費を食うんじゃないかなという状況もあります。これは
実際、武雄市内に4地区ありますが、2地区の方がおっしゃったのが、これは1つの例かも
しれませんが、なかなか今の時点はもうからんねと。実は、まだ苗代ももらっとらんもの
ということもありました。ぜひ、そういうふうな苦労をしながら一生懸命頑張っているら
っしゃいます。そういう方々に対するできるだけの御援助もいただきたいし、商売である以上、
経営も大事です。その中で、いかに工夫しながら、このレモングラスの事業についても取り
組むかということが、今改めて問われているんじゃないかと思っています。

そういう意味で、今後の行政のかかわり方についても一応提起をしてありますが、いわゆる
農業政策全体の中で、やっぱり農業者の要望としては、レモングラスもしかりですが、こ
れまで武雄の地場産については、長い間苦労して販売ルートの開拓等もしてきたと。これを
より以上にお互いに錬磨して、そして情報交換をしながら販売を促進していかなければなら
ないし、それを間接的でも側面からでも応援することを行政に望んでいらっしゃる。そ
ういう意味で、全体的に今後の農産物の販売ルートを含めたあり方についての、さらにはレ
モングラス課が4月から廃止をされて、他の取り組みの中でやっていくということですが
ども、その方向性についてお示しいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

レモングラスは一つのきっかけだったと思うんですね。多分、これは議員も私も同じ考え

だと思えるんですけども、物事というのはホップ・ステップ・ジャンプというふうに、大体この3段に分かれます。これは、私たちが学んだマルクスも大体同じことを言っています。3段に分かれる。

そのときに、実際、4年前に市長に就任させていただくときに大分悩みました、どういうふうに武雄の農産品を売っていこうかと。例えば、ある特定の産品が武雄だけあれば、それは物すごく売れるんですね、オンリーワンということで。しかし、そういったのというのは、基本的に余り見当たらなかった。たまたまですけれども、いろんな理由があってレモングラスをしたときに、これを一つの突破口にしたいと。私たちの行政用語では旗艦商品という言い方をしましたけれども、フラッグシップですね、言い方をしましたけれども、これをきっかけとして販路をまず拡大すると。その成果が出て、先ほど御答弁申し上げましたように、あの紀ノ国屋に置かれるようになる、あるいは伊勢丹に置かれるようになっていく、あと東京のホテルにも置かれるようになっていくということで、ブランドがこれで上がっています。

そして、次の段階に来ているということで、今度、レモングラス課を廃止して、4月1日に特産品課をつくります。特産品課の中にレモングラスはワン・オブ・ゼムとして、いろいろある中の一つとして側面的な支援をしていくということで、きょう、副市長と私で決断をしましたので、4月1日からは武雄市営業部特産品課として新たな門出を行くと。

これは、生産段階あるいは流通段階でいうと、ステップの段階なんですね。ですので、今、いろんな需要が高まっています。武雄はレモングラスということは、グーグルの検索でも、ヤフーの検索でも3番以内に入るぐらいになっています。レモングラスは食べ物ではありません。飲み物、あるいは歯磨き粉とか、あるいは嗜好品であるとか。今度は食べ物ですよ。例えば、キュウリであったり、チンゲンサイであったり、黒大根であったり、そういうことをうまくブランディング化して、それを特産品課として、今ある販路に乗せて売っていこうというふうに思っていますので、もし私が民意において当選させていただくとするならば、今度の4年間というのはステップの段階、しかも今、JAの皆さんと強力なスクラムが組まれていますので、JAの皆さんたちと一緒にまた売っていくということ。

そして、3年前でしょうか、台湾に知事と唐津市長と私でJ-PON、あるいはレモングラスのトップセールスに参ったときに、JAの経済連の皆さんと知り合いになりました、末次常務さんであるとか。そういった方々が、今、海外の展開を非常に考えられています。そして私が、去年の秋でしたでしょうか、レモングラスの秀島課長と台湾に行ったときにいろんなトップセールスを仕掛けてまいりましたけれども、そのときにレモングラスは非常に好評でありましたけれども、その一方で、武雄の産品は何かないかということもおっしゃっていただいていますので、台湾、中国、あるいはタイであるとか、そういう海外展開をする必要があるだろうと。そのニーズは私もじかに確認をしていますので、例えば、北方の橋下のイチゴであるとか、山内のニンジンでもいいですし、黒尾のキュウリでもいいと思います。

けれども、そういう海外の皆さんたち、特に富裕層の皆さんたちの嗜好に合うようなものを輸出して、農業生産者の次の段階は所得を向上するという事に全力を傾けたいと、このように考えております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

いずれにしても、農業を取り巻く状況は大変厳しい状況でもありますが、しかし、地元でも頑張っていこうという方々も多く出ています。ぜひそういう意味ではサポートをお願いしたいということを強く申しまして、2つ目の雇用と企業誘致について質問いたします。

実はこの項につきましては、もう多くの議員が質問していますけれども、1つの雇用関係は、もちろんこれは営業部だと思いますので、今回、3月の補正予算で、国、県の補助金等の中で2億円等の掲載をされていますが、これは予算審議でいたしますので、企業誘致につきましても先ほど答弁等もございました。1点だけ。

これもずっと議論されていますけれども、この間、企業誘致をする場合にミスマッチ、なかなか一致せんと、ミスマッチになる部分と、それに対してどのようにそのミスマッチを改善して、もう一歩踏み込んで武雄に誘致をするのかというのが、もう少し基本的な筋をお示しいただければと思っています。いわゆる企業誘致に対する相手方の関係で、どこら付近でミスマッチになって、そのミスマッチをどう変えるか。たしか1日目にちょっと説明があったと思うんですけれども、その点もう一度改めて御質問いたします。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

企業誘致の関係での御質問でございますけれども、今、現段階においては経済状況もかなり厳しいですので、どういう業種が進出意欲を持っているかというのを含めて、私どもとしては今調査をしている。要は企業ごとに、というよりも、業種ごと含めて聞き取り等のお願いをしているところであります。

今のところ、考えられるところからしますと、食品並びに環境、これは市長もさきの議会でもお答えしましたとおりでございますけれども、この辺が好調の業種ではないのかなということで考えています。ただ、特に製造業あたりについてもなかなか厳しい状況にありますので、この辺ひっくるめて進出企業等も調査しながら、今後は進めていきたいというふうに考えているところです。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう少しかいつまんで申し上げますと、今までに営業部並びに私が得た報告なんですけれども、一番ミスマッチで大きいのは場所の問題なんですね。これはさっきも答弁したかもしれませんが、伊万里、武雄の境界部分に工業団地ということで、佐賀新聞の1面トップに出たときに、いろいろちょっと変遷がありまして、それはちょっといろんな関係者の合意の中で断念というふうになっているんですけれども、やはりそのときの新聞の反応を見た企業経営者の方々が何とおっしゃったかという、やはりインターの近く、とにかくインターの近くに場所が、一団の土地が欲しいということ、それがまず第1点です。これが第1位。第2位が、病院、学校があること。特に病院は24時間、365日の救命救急病院があれば、なおよろしいということに関西の方々は特におっしゃいます。大体、張りつくときには病院が近くにあると。それと、学校です。それと第3に、これは議会でも申し上げましたけれども、やはり市民の皆さんたち、これは議会も含めて、私たちもそうなんですけど、やっぱり一体となっているところというところは言われます。そういった中で私たちとしては、今、調査を先ほど理事が申し上げたとおりやっておりますけれども、今ある理由は幾つか解決ができますので、それを踏まえて、今後またトップセールスなりセールスをかける必要があるだろうというふうに認識をしております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

先ほど申しましたように、できるだけ重複を避けたいということで、中身は大体わかりました。いずれにしても、大変厳しい経済状況の中で、29番議員、さらには6番議員からも指摘をされましたように、こういう状況の中での企業誘致をどう一歩踏み込むのかという場合に、やはりミスマッチにならないような取り組みをぜひ具体的にする中で、この政策についても努力をしていただきたいということを申し上げまして、次の大きい2点目の子育て、次世代育成についてです。

これもずっと子育て問題、市長もブログでも、さらには今回の演告でも取り組みの提起をされていますが、その1点目が保育サービス、いわゆる保育所、幼稚園での児童の状況等、そして、その保護者等を取り巻く状況についての現状と今後についての質問です。昨年も私は質問いたしました、今回、平成22年4月期、いわゆる平成21年度の市内の幼稚園、保育園の入所の申し込み状況と、それから、定員等の状況について特徴点があればお示しをいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

お答えいたします。

22年度の保育所の入所関係でございますけれども、定員に対する入所児童につきましては、21年度までは児童福祉施設の最低基準を満たしている場合に限り、年度当初において認可の15%以内、年度途中で5月から9月までであります。認可定員の25%以内で定員を超えて保育を実施することができることとされておりましたですけれども、平成22年度からはこの制限が撤廃されることになりました。施設の規模に応じて受け入れが可能になりますので、今年度につきましては待機児童はいない状況でございます。ちなみに、市内14カ所ありますけれども、定員1,345人に対しまして、申請者は市内で1,357名、市外が79名で、申請入所予定者につきましては、トータルで1,436名となっている状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

実は昨年、朝日保育所が統合新設されて、地元の方から入所希望しても入れなかったということがあります。今年度年末に募集が始まりまして、先ほどの数字で私も資料をいただきましたが、定員1,345人に対しての数がありました。実は、市内の保育所と幼稚園がありますが、保育所に至っては、14保育園の中で100%定員を超えた部分が7カ所、90%から75%がその半分の7カ所、実は予定者の方と定員の数字でパーセントを出しました。

ちなみに、朝日保育園が120人の定員に対して159人、130%超えていますよね。先ほど言われた、そういう一定の緩和措置をしていたんですけれども、それが廃止されたということですが、逆に市内の幼稚園、6カ園ありますが、定員トータルで680人に対して292人が希望されています。もちろん、保育園と幼稚園のいろんなシステムの状況、さらには年齢等もありまじょうが、やっぱり幼稚園の場合は、実は6カ園のうちに定員に対して50%か60%が半分、30から40%ぐらいの現在の応募が6分の2、20%前後以下が6分の1というふうに私の資料にはあります。そういう数の中で、今さっきありました、いわゆる定員と緩和措置、それは一方で待機児童はないというふうにおっしゃいました。4月以降もそしたら、もしすべての保育園で希望された場合は、待機せずに順次保育園に入園できるということですね。いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

お答えします。

この件につきましては定員が、先ほど言いましたように、これは施設の規模に応じた受け入れが必要であります。例えば、1人当たりの保育士の幼児が3人に1人とか、1歳から2

歳児につきましては6人に1人とかですね。面積につきましては、満2歳未満の乳児室が1人当たり1.65とか、この辺の基準がありますので、この基準を満たしていれば全部入られるようになります。ただし、希望していて入れない、施設の規模に合致しないというふうなことで入れない方につきましては、選考し、また第2希望等もありますので、そこに入っていただくようにしていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

今の答弁からすれば、武雄市においては基本的には待機児童は生じないということですね。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

現時点におきましては、待機児童はないものと思います。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

先ほど数字を出しましたけれども、そういう中で、実は保育所と幼稚園の関係で、入園希望者の数に大きな差があります。もちろん、これは担当部がこども部、教育委員会とありますけれども、なぜこのように保育所と幼稚園で入園希望者に大きな差があるのか、まず、基本的な方向性を、基本的な理由をお示しいたします。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

保育園と幼稚園の入所希望の差でございますけれども、幼稚園での児童減数の原因としては、少子化の問題もあります。あるいは、昨今の経済状況の影響もあり、保護者の就労がふえているために、保育園へシフトされているのではないかと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

今、少子化と言われましたけれども、箇所とか町によっては、さっき言いましたように緩和措置をせにゃいかんというふうなところもあるわけですね。総体として、さっき言いましたように数字を出しましたけれども、幼稚園の定員と入園予定者、保育園の定員と入所予定者を見た場合に、すごく差があります。例えば、たしかさっき言いましたように、入所条件で年齢、幼稚園の場合は5歳から6歳までとか、いろいろありますし、逆にやっぱり入園

料等の料金の関係もあるかもしれませんが、さらには、さっき言われた就労者の状況もあります。少子化ということを言われましたけれども、そういうふうな、幼稚園によっては定員の半分以下でも受け入れられている状況の中で、私立の幼稚園の場合、もちろん保育園もありますけれども、大変経営も厳しくなってくるわけですね。もちろん、国の運営費で賄っていく部分もありますけれども。そういう状況の中で、今後、武雄市の子どもたちの子育ての関係で、今、少子化と言われましたけれども、今時点から当座5年間ほど、子どもの、児童の増減推移は一定把握されていますか、現時点で。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

把握はしておりますけれども、数字的なものは今持ち合わせておりませんので、後だって報告させていただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

確かに国のほうとしては、より以上に少子化対策で一步踏み込んで取り組みをされていますけれども、当然、行政としても把握はされているだろうと思っています。それに基づいて取り組みも提起されていますけれども、財政の問題を含めて、さっき言いました国からの運営費の補助金につきましても、ややもすれば一般財源化されてしまって、どうしても保育費に係る費用が回らないのではないかという心配もされています。

そういう状況の中で、一方では保育園と幼稚園のそういう数の関係を含めて、認定こども園とか幼保の一元化の話もされています。子育て支援という方向性を持った場合に、行政の縦割りもありますが、今後のそういうふうな幼保一元化も含めて、より以上きめ細やかな子育てをするために、どのような方向性を今後やろうとしているのか、担当部局及び市長に御見解をいただきます。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

幼保連携等も各県内でもずっと多くなっておるところでございますけれども、先ほど申されました幼稚園の減少はあっておりますが、民間施設でありますので、そういうふうな相談等が参りましたら、行政としても一生懸命お手伝いをさせていただきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

ちょっと確認ですけれども、民間施設ですか。幼稚園はすべてが民間施設ですかね。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

市立幼稚園が1つあります、北方の幼稚園でございます。あとは全部民間施設でございます。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

1日目に29番議員は、それとは別に土地の問題もございました。公的土地を含めた施設をぜひ有効に使っていく方向性も出されました。一方では、23年度に北方幼稚園を私立化にしたいという案も出されていますけれども、私は本当の意味で、この認定こども園、幼保一元化等ありますけれども、やっぱり将来的な数値をきちんと出された上で、今後の方向性をより以上示すべく、この子育て支援の保育サービスについては、子育てをしている保護者なり、その関係者の不安がないような、そのような状況に取り組むことが必要だと思うわけです。国の方向も子育て支援を明確に出していますけれども、今後の方向性について、市長の所見を望みます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう二月ほど前でしょうか、「報道ステーション」の中である保育園の取り組みが出ていたんですね。これは、私の妻が保育士ですので、「ほらほら、出とう、出とう」と言うて見たんですけども、たしか兵庫県か大阪府の保育園で、そこは子どもたちが、これは私立の保育園です。マラソンの42.195キロ走りんさあとですよ。これで私もこう見ていて、熱血園長先生、74歳か75歳の方が一緒に、しかも格好ば見て、はっと思いましたけど、裸です。裸で、裸足で1日平均して8キロから10キロを走っている。その大会は42.195キロ、もちろん全員が完走するというのは無理ですけども、助け合ってゴールに行ったりとか、たしか四、五十人走って8人か9人ゴールインしておるですもんね。その保育園はもう満杯だそうです。もう断るぐらいに満杯だそうです。

したがって、私が今、そういうテレビを見ているとき、あるいは保育士である妻から話を聞くときに常々思うのは、要するに、保育を親御さんのニーズを的確にとらえることができるかどうか、もうこれに尽きると思います。要するに保護者の皆さんたちが、例えばこういう保育をしてほしいな、今、皆さん目が肥えられていますので、それを提供できるということになった場合には、それは人はおのずと集まっていく。

私は、保育の雑誌をこのごろ見たときに、多久のさくらんぼ保育園、あれが——保育の雑誌じゃなかった、普通の雑誌に載っていたんですね、さくらんぼ保育園が。ですので、そこも何かいろんな自然を生かして、野歩きとか山歩きをしているということで載っていましたけれども、やはり各園がそれぞれ特徴を出していくと。しかも先ほど申し上げたように、保護者の皆さんたちのニーズをきちんと酌み取って、それをさらに先ほどの兵庫か大阪府からちょっと忘れましてけれども、そういった保育園のようにさらに半歩前進、前へさらに前進の保育内容を提供できれば、それはおのずと私は想定されるエリアの外からもお越しいただくということにつながるのではないかなというふうに思っております。

確かに今、経営的に厳しいというのは各理事の皆さんとか経営者の皆さんにお話を伺いますけれども、やはりそういう特徴を出していくということで、私はそこに活路があるというふうに認識をしております。その上で行政の果たすべき役割というのは、やはり伸びていくところにしっかりサポートをしていくということでありまして、今後、例えば情報が足りないとか、そういうことがあったときは、こども部を中心として、いや、こういう情報がありますよとか、こういうことでどうでしょうかということで、例えば、研修であるとか勉強会であるとか、保育士部会がありますけれども、そういう連携があるのかなというふうに認識をしております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

確かに国の政策、県もありますけれども、市長においても、武雄市の場合でも、縦割り行政と言われますけれども、いわゆる教育委員会とこども部の関係、ぜひ連携をとって、よりよき子どもの育成について対応していただきたいということを含めて申し上げまして、2つ目の放課後児童クラブの指導員の雇用条件です。

実は現在、今度、条例改正がありますけれども、11カ所がたしか児童クラブがあるんじゃないかと思うわけです。現時点での私がいただいた資料では、11カ児童クラブの中で、437名の児童と指導員の方が25名、一応資料ではいただきました。私は平成18年の6月議会で、実はこの指導員の方々の処遇、雇用条件等についても質問をいたしました。

その中では、答弁として、当時は、実は指導員につきましては、合併前は各市町で違っていたけれども、合併したら、一応雇用期間が3カ年になっているというふうな答弁をいただきました。しかし、やっぱり最近のマスコミ、新聞報道でも、放課後児童クラブの位置づけと重要性について、さらには、そこで指導員の方々の処遇条件についても実は問題が指摘をされています。指導員の方々については、資格条件はないものの、半数を超す指導員の方々が、小学校の先生方など何らかの資格を有する方とか、いろんな条件の中で、年収も全国平均160

万円を切る、3分の2程度の条件で仕事をされているし、多くの指導員の方が渾身的に願張っておられるという中で、私も時々、児童クラブを訪問させてもらっていますが、本当に子どもたちの安全、そして命を預かるという大変重要な仕事をなされている中で、その処遇について、私は大変不安定さを持っておる状況を知ることが改めて出ています。

さっき言いました平成18年6月議会では、合併後は3年という雇用計画が出されています。当時、これは前段部分として認識の違いもあったかもしれませんが、市長が答弁の中で、放課後児童クラブの位置づけにつきましては、そもそも論からいえば、私はこんななかほうがよかと思うですね。というのは、基本的に私もそうでしたけれども、地域の皆さんも私も、ぽかっとなぐられたり、あるいは3世代の中で育ってききました。子育てというのは家庭、そして周りの地域がまずはぐくむものという基本的認識がありますと言われました。これはもうこれでいいですけども、しかし、そうは言いつつも、やっぱり現状はそうならない。それは補完的なものという状況の中で、今、放課後児童クラブの必要性も言われています。やっぱりそういう中で児童クラブの必要性を認識する中で、そこで精いっぱいお世話されている指導員の方々、この方々の処遇については、いま一步検討していただく必要があるのではないかと思います。そのために、まず、武雄市は雇用を最長3年としていますけれども、参考までに、もし佐賀県内の児童クラブでより以上の雇用期間を設けてあるところがあれば、把握されているところがあればお教えてください。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

申しわけございません。調べております。ちょっと今、資料をあれしておりますけど、後だってお出ししたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

ですから、箇所とかは要りませんので、まず、佐賀県内に場所別にしてもあるんですか、ないんですか、参考として。

○議長（杉原豊喜君）

暫時休憩をいたします。

休	憩	15時42分
再	開	15時43分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き再開をいたします。

藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

申しわけございません。資料がありましたので、近隣の放課後児童クラブの指導員の雇用状況についてお答えいたします。

唐津市は日々雇用で1年間、これは社会福祉協議会に委託しているということでございます。多久市が1年間、1年ごとに公募していると。伊万里市が日々雇用で1年間、1年ごとに公募をしていると。鹿島市が日々雇用で1年間、1年ごとに公募をしている。小城市が1年間で、更新は最長5年まで。神崎市が1年間で、1年ごとに公募しているというふうなことで、近隣の7市を調べておりました。よろしく申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

1年雇用、公募と言われますけれども、武雄の場合もたしか最長3年なんですよ。小城は5年ありました。さっき申しましたように、子どもたちとの関係、さらには保護者との関係、そして指導員の方々の処遇を見た場合に、やっぱりせっかく子どもたち、そして、なれてきたらもうやめにやいかんかねという不安も出ています。子どもはもちろん現武雄市では、現在は1年生から3年生までです。しかし、その中で異動等も含めながら、最長3年の1年契約というですかね、1年1年の最長3年と思うわけです。そういう契約をされていますけれども、ぜひこの3年をもう少しクリアして、今ちょっと1地区出ましたけれども、そこら付近の5年程度まででも、まず第1弾として、そういう処遇が、契約期間の扱いができないものかどうか、できる方向で検討していただけないものかどうかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

基本的には、私が指導を受けていますのは、労働基準法の関係で3年以上は好ましくないということで、そもそも私はできないというふうに聞いていますので、向こう5年間の延長というのが、ちょっと私も伺ってびっくりしたところであります。

その中で、やはり考えなければいけないのは、これは勉強を教えるわけじゃなくて、放課後児童クラブで遊んでいるわけですよ。その中に、確かに長い場合がいい場合と——やっぱり基準というのが必要だと思うんですよ。あと、個々人のこともありますし、現にそこでまた働きたいという方々もいらっしゃいます、放課後児童クラブで。ですので、そういったことなどを考えた場合に、それを私はいたずらに否定するわけじゃありませんけれども、延長については、先ほど申し上げた労働基準法の関係であるとか、あるいは指導員の皆様方の新陳代謝の話であるとか、人員の入れかえという意味での新陳代謝であるとか、あるいは地域であるとか、子どもたちのことを考えた場合に、それは総合勘案する必要があるだろうと

いうふうに思っております、結論的には私は議員とちょっと違う立場であります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

以前、3番議員からも、期間じゃなくて場所の関係ですね、市内居住者の方から、できるだけ地元で採用してほしいという質問がありました。今回、私は期間をお願いしているわけです。いろいろクリアすべき条件もありますけれども、しかし、一方ではそういうふうな状況もありますので、いろんな課題もありますが、ぜひ御検討、努力をいただきたいということをお願いしまして、次の項に入ります。

ちょっと1つ残っていましたが、新幹線に入る前に観光政策について。テレビ力について、ちょっと質問させていただきます。

実は、「佐賀のがばいばあちゃん」のテレビ放映につきましては、この間もずっと説明されてきました。先日、30番議員なり23番議員からも、影響等も経済効果等も質問、答弁されていますが、いわゆるそういう状況の中で、大変お客様がふえているというふうに言われています。一方では、武雄市の分析というのが市報に出ました。その中で観光客数につきまして、増減がありますが、日帰りのお客様はふえているけれども、観光客としてのお泊まりの方が減っていると。もちろんそれにはいろんな条件があります。私も十数年前から温泉会社で働いていました。観光行政に対する観光業務に対する知識は余りなかったんですけども、しかし、直接お客様と、さらには旅館の組合の方々とも話す中で、当時もいろんな状況を把握していました。

そこで、当時も安い、近い、短い、通称安・近・短というのがあってはいたしましたが、本当に観光事業というのは難しいわけですね。高いときもあれば低いときもあると。大変アップダウンがありました。そこで、当時よく言われたのが、いわゆるリピートでした。繰り返し繰り返しお客様が来ていただくことが観光事業としての第一課題だと、ずっと私も言われ続けてきました。いわゆるリピート。1回歩く、2回、3回とずっとロコミしてもらおうと、いい部分、こういう取り組みがきちんとない限り、なかなか続かんよと言われてました。

実は私自身、平成5年から平成10年当時、本当にお客さんもお見えになりました。当時、マスコミ、新聞も、テレビも雑誌も報道されました。自分自身もNHKの放映に出る中で、あちこちの全国の仲間から、おまえ何しよるとかいという話も出るように、当時も雑誌、新聞、テレビ等で相当、平成5年から平成10年当時、温泉ブームで忙しかった時期もありました。

今回、この「がばいばあちゃん」のテレビ力についても一生懸命取り組みをされているようですけれども、今後の課題です。実は、ある地元の観光関係の専門家の方が言われました。

大河内君、厳しかばってんが、テレビ、映画を含めてロケ地3年と言うものど、どうしても利用する観光の方々含めて、すぐ切りかえる。だから、ロケ地というのは3年したら、ややすれば忘れ去られてしまうよという教訓も言われました。そういう意味では、本当にこのロケ地3年と言われる部分をどうクリアするかというのが大変重要だと思いますけれども、今の状況を踏まえて、そういう言葉も出る中で、どのように観光客離れを改善しようとするのかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

寂しいお言葉だと思います。ロケ地3年と言いますけど、あれはよく考えてみたときに、私もふと思うのが、この3年間だけで言うと、たった1本のドラマでよくこれだけ人が来たなど。川上の淀姫神社は、観光バスだけで15万人お見えになっているわけですね。車の台数を含めると、恐らく20万人近くの方が、あの川上の淀姫神社にお見えになっています。これは区長さんを初めとして、本当にお世話になっているんですけれども。

そう考えてみた場合に、恐らくビーバイシー、費用対効果として、1回のドラマでこれだけ人がやってきて、しかも観光バスに高齢者の方々がボランティアガイドとして数十名乗っておられると。土日はまだバスがたくさんとまっているんですね。ですので、ぜひちょっと私のほうからのお願いは、これもレモングラスと一緒になんです。きっかけは大きく出たというふうに思います。どこに行っても私が、例えば、長崎に行っても、いろんなところに行っても、どこですかと聞かれた場合に、佐賀ですと言ったら、ああ、「佐賀のがばいばあちゃん」ですねというふうにもう根づいているので、ある意味、BバイCからすると、もう効果は果たし終えたんじゃないかと。さらにこれに依拠し過ぎるのは、私は問題だと思いますので、2点申し上げたいと思います。

1つは、また「佐賀のがばいばあちゃん2」がありましたので、ロケマップを整備する必要があります。これは佐賀県のフィルムコミッションも一緒につくろうというふうになっていますので、武雄のみならず佐賀県に広がっていくような広域観光の一助にしたい、これが1点。

2点目が、きょう、武雄焼のシンポジウムが行われているところであります。レモングラスのゆう菓を使ったもので、もう終わっていると思いますけれども、東馬窯の馬場宏彰さんが説明をし、今、シンポジウムが行われているところで、前ここで仕事をされていた西日本新聞の田代芳樹記者、今、論説委員でありますけれども、が入って今シンポジウムをされていると。夜にはまたいろんな懇親会が行われるということで、今、目がここに引きつけられていますので、武雄焼もまず一つの観光資源、もちろん武雄温泉も観光資源、これは黒髪温泉も入ります。それともう1つが、きのう牟田議員から質問で出ましたけれども、パワース

ポットということで、例えば、若木の永野の風穴であるとか、武雄の大楠であるとか、若木の大楠であるとか、そういったことで、単に武雄がこうあるというアピールではなくして、やっぱり受ける、特に20代、30代の女性に受けることもしなきゃいけないということを思っております。女性を引きつけることができれば、その後ろに男がついてきます。そういうことで、ぜひそういう観光のターゲットをきちんと振り分けて、例えば、武雄駅だったら御高齢者の層であるとか、パワースポットだったら若い層であるとか、「がばいばあちゃん」だったら、例えば、子どもたちの層まで含めて、層というふうにして総合的に展開する必要があるだろうというふうに思っています。

ここは議員と認識は同じだと思いますけれども、「がばいばあちゃん」だけに依拠するのはもう終わったと。そういう意味で言うと、これは樋渡市政の4年間はある意味、新しい観光の形を提示ができたなと思っております。観光客も入り込みで3割ぐらいふえていますので、そういう意味で、今度は日帰りから泊まりになっていくように、それは官民一緒になって考えていくと。今、マスコミの注目をまだ集めていますので、ぜひ私は宣伝媒体として、さらに武雄に来てくださいと、来てくんしゃいということの先頭にまた立っていきたいなど、このように思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

宣伝効果も言われていますが、実はこの武雄市内の旅館の関係等で、先日、老舗の旅館さんが、ちょっと経営が厳しか状況も出てきました。厳しい状況です。一方では、聞き伝えれば、旅館組合、今まで3つありましたね。この旅館組合が一本化されて、本当の意味で武雄市の観光のための旅館組合を一本化してやっていこうということも方向性として出されているようです。大変いいことです。

そういうふうな武雄市の観光の中では、やはり以前から地道でなかなか目立たんか知りませんが、以前は泉誘会というのがありました、泉都武雄にお客様を誘致する会。こういう部分で一生懸命地域を回ってお客様の来客運動もされた、取り組みもされているし、また一方では、一番近いところではお客様の要望なり運動ということで、桜山の散策に対するまちづくり武雄で、まちづくり交付金事業の5,000万円は消えましたけれども、町の交付金としていただいた分で散策道路、桜山をつくられています。そういうふうないろんな観光面での取り組みもされていますので、今後そういうふうな旅館組合なり、さらには地域の方々とのタイアップで、ぜひこの観光をアップしていきたいわけですが、その関連で、実はテレビ放映の「佐賀のがばいばあちゃん」について、もう少しお聞きをしたいと思っております。

私は率直に言って、まだようわからんのです。というのは、行政が民間放送のテレビ視聴

率アップの取り組み方はどこら付近までやられているのか。私はちょっと、行政は行政のスタンスであり、視聴率アップはその民放局、番組がもともと盛り上げるのが本当じゃないかなと実は自分はずっと思っているんです、私は。そういう状況の中で、実は今回、2月20日のフジテレビの民放に対する視聴率アップ等の取り組みをされました。

先日、13番議員の質問でちょっとありましたけれども、実はこの広報宣伝で、市長みずから広報を朝日町を中心に回られたとお聞きしました。大変お疲れさまでした。問題は、そこでたしか吉川議員と一緒に回られたということで、吉川議員の要請を受け、吉川議員の車の中で二、三日間、朝日町を回ったと、吉川議員の運転する車で宣伝PR行動を行ったとおっしゃいました。それはそれでなんですけれども、まず、その前段として何点か御質問ですが、17時15分から運転されたのは、市議会議員の車でということでしたね。がばいばあちゃん課とありますよね。なぜ、武雄市の広報車を使って宣伝をするというのがまず前段ですけれども、されずに私的な車でお回りになったのかということ、素朴な疑問です。お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私、褒めていただくと思って聞いていて、非常に実は悲しくなったところであるんですけども、市の広報車の場合は、例えば、これは超勤がつく可能性があるんですね。運転する人によっては、17時15分を過ぎると。あるいは、ガソリン代も市の公費から出るわけですよ。ですので、そういうことじゃなくて、やっぱりそれは、吉川議員は私は偉いと思いますよ。朝日の人に見せたいと、見てもらいたいということで、自分がするよりは、やっぱり朝日出身の市長が宣伝して回ったほうが町民の皆さんたちの気持ちを打つばいということをおっしゃって、みずから運転を買ってもらって、ガソリン代は吉川さんが払っとんさっわけですよ。ですので、市にそういった負担をかけることなく、あるいは人件費等の負担をかけることなくやっていただいたと。これこそがボランティア精神の発揮じゃないでしょうか。私はそういう意味で言うと、吉川議員の行われたことは、ある意味、真つ当な意味でのボランティア精神の発揮、議員活動の一環として、よく私に要請をしていただいたなど。

そして私も、これは誤解を招かないように申し上げますけれども、きちんと一般通念上の、私は市長ですので、勤務時間という観念はありません。これは政治家の皆さん方と一緒に。ただし、社会通念上、これを例えば朝やるとか、昼やるとは問題です。したがって、私は17時15分以降2時間程度、3日間時間がありましたので、朝日町をぐるぐるぐるぐる回って放送したと。

これに対する批判は私のところには、多分、吉川議員もそうですけれども、1件も来てないですね。少なくとも来ていません。私がこうやって話していると、手を振られたりとか、非常にいい反応でしたので。そしてしかも、この前の前田議員の御質問でもお答えをしまし

たけれども、来週と思うとったら今週やったとかという声もいただきましたので、それこそがやっぱり見ていただくことで、自分たちの物語なんだと、武雄でロケがあったんだということに認識していただくということでいえば、その批判というのは、私は率直に申し上げて当たらないのではないかなというふうに認識をしております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

すばらしいボランティア精神での取り組みですね。これは吉川議員の、もちろん市長も公人ですけれども、名誉のために、ぜひ市長にお尋ねですけれども、吉川議員の車ですね。スピーカーはその車のどこにつけてありましたか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

済みません、お話しすることがちょっといっぱいいっぱい、スピーカーの位置はたしか、私が助手席に乗っておりまして、その横にあったように認識をしております。そのアンプはたしか——ちょっとこれは間違いだったら許してほしいんですけども、足元にアンプがあって、そこからマイクが出てきているというふうで、簡易型のスピーカーだったのかなというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

公人ですね。簡易型であれ何であれ、先ほど吉川議員の名誉もありますけれども、スピーカーを取りつける場合には、基本的にボランティアであれ何であれ、公道を走る場合には、警察に道路使用許可申請書を提出しますよね。（発言する者あり）ですから、私から見て吉川議員に言っています。だから、今、市長が申されました、自分の横にあったと、スピーカーが。私も町民の方から聞きました。サイドミラーのところにスピーカーがついとったもんねと、あれで警察は許可するとねと。本来警察は、この道路使用許可申請をすれば、通常は屋根上ですね。今おっしゃったように、サイドに、わきにつけるということは、本来、私は道路使用許可申請は受理されるのかなと率直に思ったです。市民の方から話があったものですから。

そしたら、もう一度聞きましょう。武雄市長は武雄市交通安全対策協議会の会長ですね。言われました。公人であり、公人扱いでもだんだん、自分は一生懸命この「がばいばあちゃん」のことを言うてさるいと、手も振ってもろうたということですよ。しかし、ルールは

ルールじゃないんですか。いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

非常に寂しい議論だなと思います。と申し上げますのも、私は3日間にわたって、警察車両ともすれ違いました。そのときに、もし本当にこれが道交法上の問題であるとか、あるいはさまざまな風紀の問題であるとかいった場合には、必ず当局から後で御指導があります。そういった中で少なくとも、これは所有者はあくまでも吉川議員ですので、後でお聞きになってもらいたいと思うんですけれども、少なくとも私が知る限り、そういうクレームが、あるいは御指導が入ったというのは、私は聞いてはおりません。

もう1つ、もし、何というんですかね、私はその中で、例えば、公人として営利の話をしている。例えば、ある特定業者の利便を増すために商品活動を行っているということであれば、その内容、あるいはスピーカーの大きさ等々で私は公職選挙法なり、あるいは道交法上なりの規制を受けてしかるべきだと思いますけれども、単に見てほしいという一心で「がばいばあちゃん」の宣伝をしているだけなんですね。ですので、全くルールを破ったとか、私もルールは認識しているつもりでいます、私も役人出身でありますので。ですので、私の法規範の範囲内からすれば、あのとき――宮本さんよろしいでしょうか、法規範の範囲内からすると、それは社会通念上も法規範の範囲内からも許されるというふうに認識をして、私は吉川議員の運転のもとに、「がばいばあちゃん」が2月20日にありますということを申し上げました。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

ですから冒頭申しました、大変御苦労さんでしたと。それはそれでいいですよ、別に「がばいばあちゃん」の宣伝をすることに文句はありません。問題は、あなた自身が今おっしゃったですね、車の横しにスピーカーを置いたと。本来は、そういう話が私にもあったもんですから、そういうふうな車両で市長が、私は市長の樋渡ですと言いながら、そういう車を運転しながら町内を回ってさるくというのは、幾ら何でもそれは視聴率アップのための施策としてはやり過ぎではないかという苦情が寄せられたんです。

あなたにはあっていないと言われますけれども、市民の方々はすべてはそうじゃないんですね。だからさっき言いました、この視聴率アップのためにやるんだったら、少々までいいんじゃないかというふうな、私はそういうふうな聞こえるんです。しかし、あなたは武雄市交通安全対策協議会の会長であり、公人なんです。公である以上、そこはやっぱり公人とし

ての対応は、幾ら市長としてこの「がばいばあちゃん」の宣伝をするにしても、冒頭言いました、それはそれでいいですけども、本来は視聴率アップは、民放の場合は民放が精いっぱい努力するんであって、そういうふうな道交法に違反されるよと言われるような、（発言する者あり）私に対してと言われるような、そういうふうな対応をするのは私はいかなものかということで質問したわけです。

最後ですけども、まだ本当にあなたは、今回の分については道交法違反は一切してないということですね。お伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

暫時休憩いたします。

休	憩	16時10分
再	開	16時10分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き再開をいたします。

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁を申し上げます。

まず、趣旨、目的でありますけれども、あくまでも武雄市でロケがあった。特に朝日の皆さんたちがいろんな応援をしていただきました。そういった中で、自分たちがかかわる、あるいは自分たちが生まれ育った、あるいはお嫁に来たところが、やっぱりロケ地になって全国放映をされるということをぜひ知っていただきたいというその一心で行いましたので、いたずらに視聴率アップと、それは結果かもしれませんが、現に第3編になるに当たっては、武雄の視聴率も佐賀の視聴率も関係ありません。あくまでも関東、関西の視聴率はその続編に続くことで、これは15%前後を越すということがその条件になるようです。ですので、視聴率アップを目的としてというわけではありません。あくまでもお一人でも多くの皆さんたちに見てもらいたいが一心のために行ったものであり、もとより道交法の違反等については私はしていないし、そういう意識もございませんでしたし、そのそしりを当局あるいは市民の方からいただいたこともありませんので、私は自分のなすべきこととして、行政に負担をかけずにこうやったということであれば、私はなすべきことをやったということで理解をしております。

私も、あくまでも市民を代表する立場でもあり同時に、市民の一人でもあります。とりわけ朝日に生まれ育った者であります。そういった意味で、これは大河内議員と同じであります、朝日という意味ではね。だから、そういう意味で私は愛郷心の一心、それだけぜひ大河内議員、御理解をしていただければありがたいと思います。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

時間の関係で、あと1つあるものですからなんですけれども、言いたいのは、御理解、御理解と言われるんですけれども、途中申されました、法治国家です。道交法に触れちゃいかんと思うわけです。というようなことを言われていましたので、そういうことを言われなようなことをしてもらわないと、私どもも大変なんです。ぜひそういう意味では、今後もう少し配慮をお願いします。

最後です。新幹線です。実はこの新幹線問題で、今、県議会もあっていますが、先日の長崎知事選挙の中で、たしか朝日新聞社がアンケート調査されています。その中で、新幹線の西九州ルートについての県民の方の調査をされていますが、新幹線建設に反対の方が46%、賛成が32%、その他が22%でした。その中で、市長もブログに書いてありますが、新幹線につきまして、江北町長、鹿島市長も書いていますが、それに対して市長は、このデータに対しまして、わたしたちの新幹線課を設けて事業推進に取り組む樋渡啓祐武雄市長は——これは朝日新聞の報道です。まだ多くの長崎県民の目に触れる場所で工事が進んでおらず、認知度が低いせいだと冷静に受けとめる。鹿児島ルートなどの事例を見ても、工事の進捗に比例するように地元の期待は高まっていくはずだというふうに、この反対者の46%に対しても言われています。そういう意味では、認知度が低いせいということについて、もう少し御説明をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、私も朝日新聞から、桑原市長と並んで私のコメントが載るようになったのかと思って、非常にドキドキしながら、実はその朝日新聞を見ておりましたけれども、非常に冷静な書き方をされていて、うれしく思っています。

その中で私としては、やっぱりこれは病院問題もそうなんですけれども、今、例えば、病院が新武雄病院として新たな場所に造成が始まっています。そうなってくると、一般の市民の皆さんたちは、ああ、これでやっとなっていくんだということで、うまくは説明できないんですけれども、やはり建設が始まる、あるいは実体があるということになると、そこに大いに期待をしていただきます。

そういう意味で、私はそれをなぞられて、この部分は新聞には載っておりませんでしたけれども、これを引用した形で、私はいろんな工事がある、トンネル工事ができたりとか、いろんな話が出てきたりとかということがあれば、これは未来へつながる道だと、関連上、空想の話ではなくて、実際になっていくんだといったときに、私は効果が体感できるという意味

で、先ほどのインタビューに応じ、それがそのまま載ったということでもあります。

もとより、ローマの帝国のジュリアス・シーザーは、人は見えるものでしか判断はできないということを残されています。私もある意味、それがすべてだとは思いませんけれども、それは政治をやってみて、それは体感できる話でありますので、さらに工事が進捗するようになると、佐賀県内、長崎県内でもますます私は支持率というのは高まるだろうというふう
に認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

5番大河内議員

○5番（大河内 智君）〔登壇〕

実は長崎県民の方、私、佐世保、大村、諫早、長崎の仲間にも——仲間というか、何人かにも直接または間接的に聞いてみました。認知度の問題です。長崎県民が認知度がないじゃないと、費用対効果含めてなかなか効果が出ないと、そういう意味で自分たちは反対しているんだと、賛成できないという意味であり、認知度の問題ではないと言われます。私は市長として、やっぱりもとの霞が関感覚がありませんかと思ったんです。というのは、工事が始まればいろいろ言うてくれるなど。もう公共工事が始まれば、反対してもだめよという気持ちがあるのではないかというふうに実は思ったわけです。長崎県民の方もそれを言われました。

工事が始まったら認知度が認められるということでしたので、そのことを強く申し上げ、新幹線反対を申し上げまして、私の質問を終わります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

以上で5番大河内議員の質問を終了させていただきます。

先ほどの質問がありました児童数の推移について、こども部より答弁をさせます。藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

今後の子どもの推定でございますけれども、人口統計によりますと、平成22年度2,834人、平成23年度2,796人、平成24年度2,733人、平成25年度2,672人、平成26年度2,608人というふうな統計が出ております。

○議長（杉原豊喜君）

以上で本日の日程はすべて終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。どうもお疲れさまでした。

散 会 16時18分